

第1号議案

件名	第二期県立高等学校再編計画について
提案理由等	第二期県立高等学校再編計画について、別冊子のとおり策定するものである。

# 第二期県立高等学校再編計画

(案)

平成29年11月

栃木県教育委員会



## はじめに

本県では、生徒数の減少や生徒の多様化などに適切に対応し、生徒一人一人の能力を最大限に引き出す多様で柔軟な県立学校づくりなどを進めるため、平成16年3月に「県立高等学校再編計画（平成17年度～平成26年度）」を策定し、これまでに中高一貫教育校など新しいタイプの学校の設置や、男女別学校の共学化、学校の統合などを進めてきました。

しかし、今後も生徒数が急激に減少することが見込まれるほか、高校教育に対するニーズが一層多様化するなど、本県の高校教育を取り巻く社会環境は変化を続けており、そうした変化に引き続き対応していくことが求められています。

このため、有識者による「県立高校再編に関する検討会議」を設置し、平成26年度には、再編計画に基づきこれまでに進めてきた諸施策の成果と課題について検証を行っていただきました。また、平成27年度には、「全日制高校の規模と配置の適正化」「学科の構成と配置の適正化」「学校の特色化・新しいタイプの学校」「男女共学化」「定時制・通信制の在り方」について御検討いただき、今後の望ましい県立高校の在り方についての提言を取りまとめていただきました。

県教育委員会では、この提言を踏まえるとともに、平成27年度に実施した男女共学・別学についての県政世論調査や中学生、高校生及びその保護者へのアンケート調査の結果、平成28年度に実施した「高校再編県民フォーラム」などを通じていただいた県民の皆様からの御意見や全ての県立高校及び市町を訪問して行った意見交換の結果などを参考としながら、中長期的な展望に立って検討を重ね、本年7月に、「第二期県立高等学校再編計画（案）」を公表いたしました。

そして、この計画（案）について、県内7地区での説明会やパブリック・コメント制度による意見募集、さらには小中学生の保護者向け説明会や関係団体との意見交換などを行いながら、より一層検討を深め、この度、今後5年間の県立高校再編の基本的な考え方や具体的な実行計画を示した「第二期県立高等学校再編計画」を策定いたしました。

今後は、市町や関係機関等とも十分に連携を図りながら、本県教育行政の基本方向を示す「栃木県教育振興基本計画2020－教育ビジョンとちぎ－」に掲げた基本理念や基本目標の実現を目指し、本再編計画に基づき、魅力と活力ある県立高校づくりに努めて参りますので、県民の皆様の一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

平成29年11月

栃木県教育委員会

## 目 次

<b>I</b>	<b>計画策定に当たって</b> .....	1
1	計画策定の趣旨 .....	1
2	計画の期間 .....	1
3	計画の性格 .....	1
<b>II</b>	<b>高校教育をめぐる現状と課題</b> .....	2
1	高校教育に対する社会の要請 .....	2
2	県立高校の現状と課題 .....	3
(1)	生徒の多様化 .....	3
(2)	生徒数の減少 .....	3
(3)	定時制・通信制課程の役割の変化 .....	4
<b>III</b>	<b>魅力と活力ある県立高校づくり</b> .....	5
1	全日制高校の規模と配置の適正化 .....	5
(1)	規模の適正化 .....	5
(2)	規模の特例（特例校） .....	7
(3)	学校の統合 .....	9
(4)	男女別学校の共学化 .....	13
(5)	学科の構成と配置の適正化 .....	15
2	特色化の推進 .....	20
(1)	各学校の特色化の推進 .....	20
(2)	単位制高校 .....	21
(3)	コミュニティ・スクール .....	23
3	定時制高校・通信制高校の規模と配置の適正化 .....	24
	<b>実行計画総括表</b> .....	28

参考資料

# I 計画策定に当たって

---

## 1 計画策定の趣旨

栃木県教育委員会では、平成16年3月に「県立高等学校再編計画（平成17年度～平成26年度）」（以下「第一期再編計画」という。）を策定し、時代の要請や生徒の多様な学習ニーズに沿った、魅力と活力ある県立高校づくりを進めてきました。

しかし、グローバル化や、人口減少、少子高齢化の進展など、高校教育を取り巻く社会環境は急速に変化し続けています。とりわけ、平成30年度以降に見込まれている中学校卒業生数の急激な減少は、学校の小規模化を招き、学校の活力の低下や生徒のニーズに応じた多様な選択肢の確保を困難にするなど、教育の質の低下に繋がるのが懸念されます。このため、県立高校における教育の質の維持・向上を図るとともに、生徒一人一人が、将来、社会的に自立し、主体的に社会に参画し生きていける力を培える教育環境を確保する必要があります。

そこで、魅力と活力ある県立高校づくりをより一層推進するため、「第二期県立高等学校再編計画」（以下「本計画」という。）を策定しました。

## 2 計画の期間

平成30年度から平成34年度までの5年間を計画期間とします。

## 3 計画の性格

本計画は、本県教育行政の基本方向を示す「栃木県教育振興基本計画2020－教育ビジョンとちぎ－」（平成28年度～平成32年度）における基本施策を推進していくに当たり、その基盤となる教育環境を整備するための部門計画に位置付けられます。

本計画の策定に当たっては、10年先までの中学校卒業生数の見込みや、社会変化の予測、国における教育改革の動向などを見据え、中長期的な視点に立つとともに、県政の基本方針を示す栃木県重点戦略「とちぎ元気発信プラン」（平成28年度～平成32年度）との関連性や、「第一期再編計画」との継続性も考慮しました。

今後は、本計画に従って、県立高校の再編整備を計画的・段階的に推進していきませんが、人口動態や社会の変化などを踏まえ、必要に応じて見直しを行うこともあります。

## Ⅱ 高校教育をめぐる現状と課題

---

本計画では、以下に示す高校教育をめぐる現状と課題を踏まえ、魅力と活力ある県立高校づくりをより一層推進します。

### 1 高校教育に対する社会の要請

社会が急速に変化し続ける時代において、高校教育には、生徒一人一人が社会的・職業的に自立するとともに、自己実現を目指して生涯にわたり学び続けていけるように、確かな学力や豊かな人間性等を育むことが求められています。さらに、主体的に社会に参画し、多様な人々と協働しながら、幅広い視野と柔軟な発想で、新たな価値を創造し、持続可能な社会づくりに貢献できる人材を育成することが求められています。

また、人口減少や少子高齢化の進展により、経済の停滞や社会の活力の低下が懸念されており、本県においては、特に、中山間地域など県の周縁部で、地域を支える様々な活動の担い手が不足してきています。このような中で、地元産業や地域社会の将来を担う人材の育成など、高校が地域振興に果たす役割への期待が高まっています。このため、各高校が専門性を発揮し、高校生の新しい発想、活力を生かして地域課題を探求する学習を充実するなど、地域との連携を図りながら、郷土愛や、地域に貢献しようとする思いや態度を育んでいく必要があります。

さらに、本県産業がバランス良く持続的に発展していくためには、各産業を担う人材の育成が必要であることから、特に職業系専門学科においては、学科構成のバランスに留意するとともに、企業や大学、県の試験研究機関等との連携を図りながら、産業界のニーズに対応した実践的な職業教育を充実し、専門的知識・技能の基礎を身に付けさせていく必要があります。

## 2 県立高校の現状と課題

### (1) 生徒の多様化

本県では、高校等<sup>※</sup>への進学率が98%を超えて推移しており、生徒の目的意識や、興味・関心、進路希望、能力・適性等は多様化しています。このような状況を踏まえ、第一期再編計画では、全ての県立高校の特色化の推進を図るとともに、総合学科高校<sup>※</sup>や中高一貫教育校<sup>※</sup>、フレックス・ハイスクール<sup>※</sup>などの新しいタイプの学校を設置し、生徒の様々な学習ニーズへの対応や学習機会に係る選択肢の充実を進めてきました。

今後とも、生徒一人一人がそれぞれの夢の実現に向け、意欲的に高校生活を送れるよう、優れた才能や個性を伸ばすための取組の推進や、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図るための学習機会の提供など、多様な学びのニーズに応える取組の推進が求められています。

### (2) 生徒数の減少

県内の中学校卒業生数は、平成元年の33,066人をピークに減少を続け、平成29年にはピーク時の57%に当たる18,888人まで減少しました。

この生徒数の減少に対し、県教育委員会では、第一期再編計画を策定し、県立高校の適正規模を1学年4から8学級と定め、適正規模未満の学校や将来適正規模の維持が困難となることを見込まれる学校を中心に9組の学校を統合することで、規模の適正化を図ってきました。この結果、現在は、全ての全日制県立高校の学校規模が適正規模内となっています。しかし、全体的に小規模化が進んでおり、県の周縁部では、入学者数が募集定員を大きく下回り、1学年4学級の維持が困難になっている学校もあります。

---

【高校等】全日制・定時制・通信制の高等学校の他、中等教育学校、高等専門学校、特別支援学校高等部への進学者を含んでいます。

【総合学科高校】国語、数学などの共通教科・科目及び商業、家庭、芸術などの専門教科・科目にわたる幅広い選択科目の中から、将来の進路を考え自分で科目を選択して学ぶことができる高校です。本県では6校設置しています。

【中高一貫教育校】中学校と高校を接続し、6年間の計画的・継続的な教育を行う学校で、中等教育学校、併設型、連携型の3つの設置形態があります。本県では併設型中高一貫教育校を3校設置しています。

【フレックス・ハイスクール】単位制による昼夜間開講の定時制及び通信制を併置した独立校を表す、本県における呼称です。



平成23年度以降、19,000人前後で推移していた中学校卒業生数ですが、平成30年度以降、再び急激な減少に転じ、10年後の平成39年には、16,200人程度と、平成29年の卒業生と比べ14%程度減少することが見込まれています。現在59校ある全日制県立高校を維持しながら学級減のみで対応した場合、複数の学校が適正規模未満になるなど、高校の小規模化が著しく進行します。

学校の小規模化は、生徒同士の切磋琢磨の機会が減少するとともに、教員数の減少により、科目ごとの専門性の高い教員の配置が困難になったり、生徒の多様なニーズに応じた柔軟な教育課程の編成が困難になったりするほか、学校行事や部活動なども制限され、特色ある教育活動の取組に支障が生じやすくなります。

このため、引き続き適正な学校規模の維持に努めていく必要がありますが、その一方で、適正規模の維持が困難、または、将来困難となることを見込まれる学校は、中山間地域など、通学が不便で、近隣に他の高校がない地域の高校が多く、高校教育の質の確保と併せて、周辺地域の子供たちの高校教育を受ける機会の確保についても配慮する必要があります。

また、生徒数減少が見込まれる中においても、生徒の興味・関心や進路希望、県民の要請や地域の期待に応える特色ある学校・学科を、各地域においてバランス良く配置できるよう努めていく必要があります。

### (3) 定時制・通信制課程の役割の変化

定時制・通信制課程については、不登校経験者や高校中退経験者、特別な支援を必要とする生徒など、多様な生徒が在籍している一方、働きながら高校進学を希望する中学生は若干名となっています。そのため、第一期再編計画において、その役割を見直し、多様な学習ニーズへの受け皿や、再チャレンジの場としての役割を重視し、フレックス・ハイスクールとして再編整備することとしました。そして、県南地域では、複数の定時制課程を統合し、学悠館高校を設置しました。

現在も定時制・通信制課程には多様な生徒が在籍しており、学び直しの機会の提供など、困難を抱える生徒の自立支援等の面で大きく期待されています。このため、定時制・通信制課程では、その特長を生かして、学習の時間や方法を柔軟化し、引き続き、多様な生徒のニーズに応えられる学習環境の整備や、支援の充実に努めていくことが求められています。

## Ⅲ 魅力と活力ある県立高校づくり

---

### 1 全日制高校の規模と配置の適正化

#### (1) 規模の適正化

本県では、引き続き、1学級40人換算で1学年当たり4学級から8学級を適正規模とし、学校の統合などにより、その維持に努めます。

#### ◇ 基本的な考え方

ア 高等学校には、一定規模の集団の中で、様々な教育活動や生徒同士の切磋琢磨などを通して、知識や教養を身に付け、人間性や社会性を培うことが求められています。

そこで本県では、様々な教育活動を効果的に行う観点から、1学年当たり160人から320人、全校で480人から960人を適正規模の学校と考えます。

イ 現在、1学年3学級以下の学校はありませんが、1学年4学級と5学級の学校が約3分の2を占めており、今後も生徒の減少が続くと、一層の小規模化が進行し、学習活動を始め、生徒会活動や部活動など多くの面で学校運営に支障が生じることが懸念されることから、適正な学校規模の維持に努める必要があります。

ウ 様々な面で変革が迫られる厳しい時代にあって、施設・設備や教職員に係る費用など、限られた県の教育予算を有効に活用する観点からも、適正な学校規模を維持する必要があります。

エ 適正規模の維持が困難または将来困難となることを見込まれる学校を中心に統合することなどにより、適正な学校規模の維持に努めます。

#### ◇ 適正規模の効果

適正規模を維持又は確保した場合、生徒にとっての利点として、次のことが考えられます。

- ア 生徒の進路希望や学習ニーズに応じた多様な教科・科目を開設できます。
- イ 各教科・科目ごとに教員を適正に配置でき、高校教育の専門性が確保できます。
- ウ 多くの教職員と接することにより、進路や職業に関する知識が広がり、理解が深まります。
- エ 多様な個性をもった多くの生徒が集まり、様々な場面における生徒同士の切磋琢磨が期待できます。
- オ 文化祭・体育祭などの学校行事や生徒会活動、部活動が活性化します。
- カ 生徒と教職員の適度なコミュニケーションが確保され、まとまりと活力のある学校運営が図れます。
- キ 教職員の校務\*が適正に配分され、指導の充実が図れます。

---

【校務】例えば①教育課程に基づく学習指導などの教育活動に関すること②学校の施設設備、教材教具に関すること③文書作成処理や会計事務などの学校の内部事務に関すること④教育委員会などの行政機関やPTA、各種団体との連絡調整など、学校の仕事全体のことをいいます。

## (2) 規模の特例（特例校）

県の周縁部に位置する一部の学校では、特例として、適正規模未満で学校を維持する場合があります。

### ◇ 基本的な考え方

ア 適正規模の維持が困難または将来困難となることが見込まれる学校であっても、県の周縁部に位置し、中山間地域など通学不便な地域が学校周辺に広がり、近隣に他の高校がない学校は、特例として、1学年3学級または2学級で生徒の募集をします（以下「3学級特例校」、「2学級特例校」という。）。

イ 特例校では、学校運営協議会制度\*を導入するなど、地域と一体となって魅力ある学校づくりや地域を支える人材の育成に取り組み、生徒の確保に努めます。

ウ 特例校とした後も入学者が募集定員を下回り、将来的にも募集定員分の生徒の確保が困難であることが見込まれる場合には、次のとおりとします。

3学級特例校については、地元地域とも十分に協議し、統合などを行い募集を停止するか、または、募集定員を減じ、2学級特例校として生徒の募集を続けます。

2学級特例校については、2学級での生徒募集開始から3年目以降、入学者が2年連続して募集定員の3分の2未満となった場合は、地元地域とも十分に協議し、原則として、統合などを行い募集を停止します。

エ 特例校であっても、統合により教育内容の一層の充実と活性化ならびに地区全体の教育の質の向上が期待される場合には、上述の入学状況にかかわらず、統合を検討します。

オ 統合などを行う際の計画は、別途定めます。

### ◇ 対象となる学校

日光明峰高校、益子芳星高校、茂木高校、馬頭高校、黒羽高校、那須高校

---

【学校運営協議会制度】保護者や地域住民などから構成される協議会であり、この協議会を設置した学校がコミュニティ・スクールです。協議会の委員に任命された保護者や地域住民などが一定の権限を持って学校運営に参画することを通して、学校が地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」づくりを進めることをねらいとします。

◇ 実行計画

ア 平成30年度に日光明峰高校を2学級特例校、馬頭高校を3学級特例校とします。

イ ア以外の対象となる学校については、地域の中学校卒業生数の見込みや入学者数の状況等を見ながら特例校とする年度を決定し、その前年度に公表します。

【特例校】

対象高校	実施年度	設置学科	再編の概要
日光明峰高校	H30年度	普通科	・ 2学級特例校 ・ 学校運営協議会制度の導入
馬頭高校	H30年度	普通科 水産科	・ 3学級特例校 ・ 学校運営協議会制度の導入

### (3) 学校の統合

現在59校ある全日制高校について、各地区ごとの生徒の減少率や、各学校の現状、今後の見通しなどを勘案し、一部の地区において、統合を行います。

#### ◇ 基本的な考え方

- ア 適正規模の維持が困難または将来困難となることが見込まれる学校や、適正規模であっても統合により教育内容の一層の充実と活性化が期待できる学校は、統合を検討します。
- イ 学習や部活動など生徒の多様なニーズに応えるためには、一定規模以上の学校であることが必要です。特に、大学進学を目指す生徒が多い普通科高校は、各教科・科目の専門性に配慮して教員を配置し、切磋琢磨の中で学力の向上を図る観点から、ある程度大きな学校規模の確保に努めます。
- ウ 県立高校の通学区域は廃止<sup>\*</sup>しましたが、8割以上の生徒が旧学区内の高校に進学している現状、並びに通学範囲に多様な選択肢を確保する観点から、統合校の検討は、通学圏にも配慮しながら、旧学区ごとに7地区に分けて行います。
- エ 統合に当たっては、各学校の特色や学校間の距離にも配慮しながら、各校が培ってきた伝統や教育力を十分に継承し、更なる発展に繋がる組み合わせを検討します。
- オ 統合新校においては、新たな教育内容・方法等を積極的に導入し、特色ある学校づくりに努めます。

---

【県立高校の通学区域の廃止】栃木県立高等学校の通学区域については、栃木県立高等学校の通学区域に関する規則（平成5年栃木県教育委員会規則第9号）により、7つの通学区域（学区）に分かれていましたが、平成26年4月1日に同規則は廃止したため、現在通学区域はありません。

## ◇ 推進計画

### ア 全県

平成29年4月現在、本県には全日制高校が59校あります。これを1学年の学級数で表した学校規模別に見ると、8学級校3校、7学級校6校、6学級校12校、5学級校22校、4学級校16校であり、1校当たりの1学年平均学級数は、5.3学級となっています。

また、平成29年を基準とした平成34年前後の中学校卒業見込み者数\*の減少率（以下「減少率」という。）は約8%であり、1学級40人換算で24学級程度の学級減が見込まれ、平成34年度には、1学年平均学級数は、4.9学級となる見込みです。

しかし、この生徒の減少率や、各学校の現状、今後の見通しは、地区ごとに大きなバラつきがあり、統合が必要となる地区もあります。

### イ 宇都宮地区

現在、全日制高校が10校あります。学校規模別では、8学級校3校、7学級校6校、4学級校1校であり、1校当たりの1学年平均学級数は、7.0学級となっています。

また、減少率は約2%であり、1学級程度の学級減が見込まれ、平成34年度には、1学年平均学級数は、6.9学級となる見込みです。

このため、今後5年間では、学校の統合の必要性はない見通しです。

### ウ 上都賀地区

現在、全日制高校が7校あります。学校規模別では、6学級校1校、5学級校4校、4学級校2校であり、1校当たりの1学年平均学級数は、4.9学級となっています。

また、減少率は約8%であり、4学級程度の学級減が見込まれ、平成34年度には、1学年平均学級数は、4.3学級となる見込みです。

しかし、特例校を除いた残りの学校の1学年平均学級数は、4.7学級となる見込みであることから、今後5年間では、学校の統合の必要性はない見通しです。

---

【平成34年前後の中学校卒業見込み者数】中学校卒業見込み者数は、地区によっては年ごとに大きな変動があることから、平成33年、平成34年及び平成35年の平均値としています。

## エ 下都賀地区

現在、全日制高校が14校あります。学校規模別では、6学級校4校、5学級校7校、4学級校3校であり、1校当たりの1学年平均学級数は、5.1学級となっています。

また、減少率は約8%であり、6学級程度の学級減が見込まれ、平成34年度には、1学年平均学級数は、4.6学級となる見込みです。

このため、今後5年間では、学校の統合の必要性はない見通しです。

## オ 安足地区

現在、全日制高校が8校あります。学校規模別では、6学級校2校、5学級校4校、4学級校2校であり、1校当たりの1学年平均学級数は、5.0学級となっています。

また、減少率は約15%と県内で最も高く、6学級程度の学級減が見込まれ、平成34年度には、1学年平均学級数は、4.3学級となる見込みです。

今後5年間で、多くの学校が4学級となる見通しであることから、学校の活力を高め、より一層魅力ある学校とするために、1組程度の統合を行います。

## カ 芳賀地区

現在、全日制高校が6校あります。学校規模別では、5学級校3校、4学級校3校であり、1校当たりの1学年平均学級数は、4.5学級となっています。

また、減少率は約2%であり、1学級程度の学級減が見込まれ、平成34年度には、1学年平均学級数は、4.3学級となる見込みです。

しかし、一部の学校を適正規模未満の特例校とした場合、残りの学校の1学年平均学級数は、4.8学級となる見込みであることから、今後5年間では、学校の統合の必要性はない見通しです。

## キ 那須地区

現在、全日制高校が8校あります。学校規模別では、6学級校4校、5学級校1校、4学級校3校であり、1校当たりの1学年平均学級数は、5.1学級となっています。

また、減少率は約13%であり、4学級程度の学級減が見込まれ、平成34年度には、1学年平均学級数は、4.6学級となる見込みです。

しかし、一部の学校を適正規模未満の特例校とした場合、残りの学校の1学年平



均学級数は、5.2学級となる見込みであることから、今後5年間では、学校の統合の必要性はない見通しです。

#### ク 塩谷・南那須地区

現在、全日制高校が6校あります。学校規模別では、6学級校1校、5学級校3校、4学級校2校であり、1校当たりの1学年平均学級数は、4.8学級となっています。

また、減少率は約11%であり、2学級程度の学級減が見込まれ、平成34年度には、1学年平均学級数は、4.5学級となる見込みです。

しかし、特例校を除いた残りの学校の1学年平均学級数は、4.8学級となる見込みであることから、今後5年間では、学校の統合の必要性はない見通しです。

### ◇ 実行計画

安足地区において、平成34年度に足利高校と足利女子高校を統合します。

統合新校は、1学年6学級程度の普通科高校とします。また、生徒の意欲や能力を高め、進路の実現を図る観点から、興味・関心や進路希望等に応じた科目を選択し学習できる単位制<sup>\*</sup>を導入し、新校舎等を整備するなど、魅力と活力ある学校づくりに努めます。

なお、新校舎等を整備する場所については、交通の利便性等を考慮し、足利女子高校の敷地とします。

また、統合の際には、足利高校、足利女子高校の2年生、3年生も同時に新校へ転学することで、両校の伝統を継承しながら、新たな学校づくりを進めます。

#### 【統 合】

対象高校	実施年度	使用校地	再編の概要
足利高校 足利女子高校	H34年度 <sup>※1</sup>	足利女子高校 <sup>※2</sup> 足利高校	・単位制の導入 ・男女共学化 ・新校舎の整備

※1 H34年度の統合に合わせ、両校の2年生・3年生は統合新校に転学となります。

※2 主に足利女子高校の校地を使用しますが、足利高校のグラウンドや体育館についても、部活動等で使用します。

【単位制】 詳細は21ページを御参照下さい。

#### (4) 男女別学校の共学化

男女別学校の共学化については、各高校や地域の実情等に応じて行います。

##### ◇ 基本的な考え方

ア 共学化については、共学校と別学校の共存を望む県民世論にも配慮しながら、各高校や地域の実情等に応じて行います。

イ 共学化に当たっては、それぞれの学校が培ってきた特色や教育の成果をできるだけ引き継ぎながら、教育内容の充実を図ります。また、新たな教育内容・方法等を積極的に導入し、より一層、魅力ある学校づくりに努めます。

##### ◇ 推進計画

ア 別学校の規模が小さくなることにより活力の低下が懸念される場合は、統合によって適正規模を確保するとともに、共学化します。

イ 男女別募集定員に片寄りのある地区については、共学化を行います。

##### ◇ 実行計画

ア 平成34年度に足利高校と足利女子高校を統合し、共学化します。また、その際、単位制を導入します。

イ 平成34年度に宇都宮中央女子高校を共学化します。また、その際、単位制を導入します。

### 【男女共学化】

対象高校	実施年度	設置学科	再編の概要
足利高校 足利女子高校	H34年度※	普通科	・統合 ・単位制の導入
宇都宮中央女子高校	H34年度	普通科 総合家庭科	・単位制の導入

※ H34年度の統合に合わせ、足利高校・足利女子高校の両校の2年生・3年生は統合新校に転学となります。

## (5) 学科の構成と配置の適正化

募集定員に占める普通系学科と職業系専門学科の割合は、引き続き、現在の7：3を概ね維持します。また、各職業系専門学科の割合も現状を概ね維持します。

### ◇ 基本的な考え方

- ア 普通系学科\*と職業系専門学科\*の募集定員の割合については、中学生の進路希望が7：3である状況等から判断し、引き続き、現在の7：3を概ね維持します。
- イ 職業系専門学科の各学科の募集定員の割合についても、中学生の進路希望状況や、本県産業の特質並びに各産業分野のバランス良い持続的な発展を考慮し、現状を概ね維持します。
- ウ 職業系専門学科の学級減については、学科の閉科を伴うこともあることから、中学生の進路希望状況や地域のニーズ、また、学びの機会が確保されるよう通学圏にも配慮しながら行います。  
なお、その際、学科の改編も検討します。

### ◇ 推進計画

#### ① 普通系学科

- ア 普通科については、中学生の進路希望状況や学校の特色、地域における役割、生徒の通学圏等を考慮しながら、各地区ごとの生徒の減少に応じた学級減を行います。
- イ 普通系専門学科の数理科学科とスポーツ科については、今後とも生徒の志望動向や成果などを見極めながら、今後の在り方について検討します。
- ウ 総合学科については、興味・関心や進路希望に応じて多様な科目を選択できることに魅力を感じる生徒も多く、各地域において学校選択肢となるよう維持します。

---

【普通系学科】本県では、普通科の他、数理科学科、スポーツ科の普通系専門学科及び総合学科を普通系の学科と位置づけています。

【職業系専門学科】本県では、農業、工業、商業、水産、家庭、福祉に関する職業系専門学科を設置しています。

## ② 職業系専門学科

ア 農業科については、次代を担う農業人材を育成し、本県農業の成長産業化を進める観点などから、現在の募集定員の割合を概ね維持します。

閉科を伴う学級減の際は、学科を統合し、コース制<sup>\*</sup>を導入するなどしながら、地域や中学生のニーズに応えられる、より一層魅力ある学科へと改編します。

イ 工業科については、全国有数の「ものづくり県」としての本県産業の特質を踏まえ、専門の知識や技術、技能を備えた人材を育成する観点から、現在の募集定員の割合を概ね維持します。

閉科を伴う学級減の際は、学科を統合し、コース制を導入するなどしながら、地域や中学生のニーズに応えられる、より一層魅力ある学科へと改編します。

ウ 商業科については、マーケティングや企業会計などビジネスの諸活動において活躍し、地域経済の活性化に貢献できる人材を育成する観点などから、現在の募集定員の割合を概ね維持します。

閉科を伴う学級減の際は、引き続き、当該校において関係する学習内容を選択し学べるよう教育課程を見直します。

エ 水産科については、全国唯一の内陸における水産専門学科として、淡水魚の専門的学習ができるなど本県の特徴となっていることや、地域産業を担う人材を育成する観点などから、現在の募集定員を今後も維持します。

オ 家庭科については、衣・食・住に係る生活関連産業分野や、保育や家庭看護などのヒューマンサービス分野のニーズが高まっていることから、現在の募集定員を今後も維持します。

カ 福祉科については、関連産業への従事者育成に加え、福祉教育のもつ教育力の活用や地域における福祉活動の担い手育成の観点から、現在の募集定員を今後も維持するとともに、一部の総合学科に福祉系列<sup>\*</sup>を導入するなど、福祉に対する興味・関心の喚起や基礎的な知識・技能の修得の機会を拡充します。

---

【コース制】 2年次から、興味・関心や進路希望に応じて、学科の学習内容を細分化・重点化したコース(類型)に分かれて専門性を深めていく学び方です。

【系列】 総合学科において開設される多様な選択科目を、体系性や専門性などにおいて関連のある科目によって構成した総合選択科目群のことです。生徒自身の進路の方向に沿った科目履修が可能となるよう、科目選択の目安として各学校ごとに設定されています。例えば、人文社会系列、自然科学系列、情報メディア系列、芸術・スポーツ系列などがあります。

## ◇ 実行計画

### ① 普通系学科

普通科、普通系専門学科及び総合学科において、計画期間中に16学級程度の学級減を行います。

学級減の対象校及び実施年度については、原則として、これまでの募集定員の公表と同様、実施の前年度に公表します。

### ② 職業系専門学科

ア 農業科については、栃木農業高校と小山北桜高校で、学級減を伴う学科改編を行います。

栃木農業高校では、農業科、生物工学科、農業土木科、食品化学科、生活科学科の5学科5学級を改編し、平成31年度から新たに植物科学科、動物科学科、食品科学科、環境デザイン科の4学科4学級の募集とします。その際、コース制を導入することなどで、引き続き、生徒や地域の多様なニーズに対応します。

小山北桜高校では、園芸科学科と造園土木科の2学科2学級を統合改編し、平成32年度から食料環境科1学級の募集とします。その際、コース制を導入することで、引き続き、園芸作物等の栽培や造園などに関する学習の機会を維持します。

イ 工業科については、栃木工業高校、足利工業高校、那須清峰高校で、学級減を伴う学科改編を行います。

栃木工業高校では、電子科と情報技術科の2学科2学級を統合し、平成31年度から電子情報科1学級の募集とします。その際、コース制を導入することで、引き続き、電子や情報に関する学習の機会を維持します。

足利工業高校では、電気科と電子機械科の2学科2学級を統合し、平成32年度から電気システム科1学級の募集とします。その際、コース制を導入することで、引き続き、電気や電子機械に関する学習の機会を維持します。

那須清峰高校では、電気科と情報技術科の2学科2学級を統合し、平成32年度から電気情報科1学級の募集とします。その際、コース制を導入することで、引き続き、電気や情報に関する学習の機会を維持します。また、電子機械科の学科名を機械制御科に変更します。

ウ 商業科については、計画期間中に3学級程度の学級減を行います。

足利清風高校では、平成33年度に情報処理科を募集停止とします。しかし、その後も商業科の選択科目で情報処理について学べるよう教育課程を見直します。

その他の商業科の学級減の対象校及び実施年度については、原則として、これまでの募集定員の公表と同様、実施の前年度に公表します。

エ 福祉科については、現在3校に設置していますが、学科名が社会福祉科、教養福祉科と異なることから、平成31年度から介護福祉科に統一します。

また、総合学科において、平成33年度から小山城南高校の福祉に関する系列を充実させるとともに、平成34年度からは黒磯南高校に新たに福祉系列を導入します。

【学科の改編・募集停止（閉科）】

※   は、新たな学科

対象高校	実施年度	設置学科	再編の概要
栃木農業高校	H31年度	<span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">植物科学科</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">動物科学科</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">食品科学科</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">環境デザイン科</span>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業科、生物工学科、農業土木科、食品化学科、生活科学科の5学科からの改編</li> <li>・コース制の導入</li> </ul>
小山北桜高校	H32年度	<span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">食料環境科</span> 建築システム科 総合ビジネス科 生活文化科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園芸科学科と造園土木科の統合・改編</li> <li>・コース制の導入</li> </ul>
栃木工業高校	H31年度	機械科 電気科 <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">電子情報科</span>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子科と情報技術科の統合・改編</li> <li>・コース制の導入</li> </ul>
足利工業高校	H32年度	機械科 <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">電気システム科</span> 産業デザイン科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電気科と電子機械科の統合・改編</li> <li>・コース制の導入</li> </ul>
那須清峰高校	H32年度	機械科 機械制御科 <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">電気情報科</span> 建設工学科 商業科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電気科と情報技術科の統合・改編</li> <li>・コース制の導入</li> <li>・学科名変更</li> </ul>
足利清風高校	H33年度	普通科 商業科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報処理科の募集停止</li> <li>・情報処理に関する選択科目の設置</li> </ul>



## 2 特色化の推進

### (1) 各学校の特色化の推進

生徒一人一人の学ぶ意欲や目的意識を高め、個性や能力の一層の伸長を図るため、引き続き、各学校の特色化を推進します。

#### ◇ 基本的な考え方

ア 生徒一人一人の学ぶ意欲や目的意識を高め、個性や能力の一層の伸長を図るため、生徒の様々な学習ニーズに対応した学習機会を選択肢として提供するなど、引き続き、各学校の特色化を推進します。

イ 確かな学力の育成を図るため、生徒や学校の実態に応じて、義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るための学び直しの指導をより一層充実させます。

ウ 勤労観・職業観をしっかりと育んでいくため、インターンシップ\*の充実を図るとともに、生徒や学校の実態に応じて、普通系高校においても、職業系専門科目を学べる類型を設置するなど、教育課程の工夫に努めます。

エ 地域社会を担う人材の育成を図るため、地域の特性を生かした学びの機会を充実させます。

オ 学校間、学科間の連携や、大学、企業、地域等と連携した教育活動を推進します。

カ SSH (スーパーサイエンスハイスクール) やSGH (スーパーグローバルハイスクール)、SPH (スーパープロフェッショナルハイスクール) など国の支援事業\*の活用、単位制やコミュニティ・スクールの導入、県の支援事業\*などにより、特色化の推進を図ります。

---

【インターンシップ】生徒が企業等において実習・研修的な就業体験をする制度のことです。

【SSH(スーパーサイエンスハイスクール)事業】将来の国際的な科学技術関係人材の育成を目指し、先進的な理数教育を実施する高校等を支援する文部科学省の事業です。本県の県立高校では、平成29年度現在、宇都宮女子高校、栃木高校及び足利高校が指定されています。

【SGH(スーパーグローバルハイスクール)事業】国際化を進める大学等と連携を図り、将来国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成に取り組む高校等を支援する文部科学省の事業です。平成29年度現在、佐野高校が指定されています。

【SPH(スーパープロフェッショナルハイスクール)事業】大学・研究機関・企業等と連携を図り、社会の第一線で活躍できる専門的職業人を育成する専門高校を支援する文部科学省の事業です。平成29年度現在、宇都宮工業高校が指定されています。

【県の支援事業】平成29年度現在、県立高校を対象に、「スタディ・フロンティア推進事業」や「定通制学力アップ支援事業」などを実施しています。

## (2) 単位制高校

興味・関心や進路希望等に応じた科目を選択し学習できる単位制を全日制普通科を中心に導入します。

### ◇ 基本的な考え方

- ア 生徒の興味・関心や進路希望等に応じた多様な教科・科目の開設や、学習習熟度別少人数授業の充実が可能となる単位制の利点を生かし、個に応じたきめ細かな教育活動を展開します。
- イ 生徒や学校の実情、地域のニーズ等を踏まえながら、幅広い選択科目の開設や半期での単位認定など、単位制ならではの特色ある教育課程の編成と運用に努めます。
- ウ 生徒が自分の学習計画に基づいて、幅広く開設された選択科目の中から、主体的に科目を選択し学習することを通して、意欲や能力を高め、進路実現を図る学校を目指します。
- エ 生徒ができるだけ早期に目的意識を明確化し、適切な科目選択ができるように、ガイダンス機能の充実を図ります。

### ◇ 推進計画

- ア 大学進学を目指す生徒が多い高校や3学級特例校に単位制を導入します。
- イ 大学進学を目指す生徒が多い高校では、希望する大学への進路実現に向けた応用力や実践力向上のための科目、学問への興味・関心や探究心を高める発展的な学習内容の科目を開設するなど、教育課程の工夫により、特色化を図ります。
- ウ 3学級特例校では、職業系専門科目や地域課題等を探究する科目を開設するなど、生徒の多様な進路希望や学習ニーズへの対応に重点を置いて、特色化を図ります。

### ◇ 実行計画

- ア 平成34年度に、足利高校と足利女子高校の統合新校、並びに宇都宮中央女子高校を共学化した新校に単位制を導入します。
- イ 3学級特例校については、特例校とする年度に単位制を導入します。

**【単位制の導入】**

対象高校	導入年度	設置学科	再編の概要
足利高校と足利女子高校の 統合新校	H34年度	普通科	・進学に重点
宇都宮中央女子高校 (共学化した新校)	H34年度	普通科 総合家庭科	・進学に重点 ・男女共学化
馬頭高校	H30年度	普通科 水産科	・多様な学びに重点 ・特例校

### (3) コミュニティ・スクール

「地域とともにある学校」づくりを進めるため、各高校や地域の実情等に応じて学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとします。

#### ◇ 基本的な考え方

- ア 学校運営協議会を設置し、地域住民や保護者などが一定の権限を持って学校運営に参画することを通して、学校が地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」づくりを進めます。
- イ 学校運営の基本方針を地域住民や保護者などと共有するとともに、地域住民や保護者などの意見を学校運営や教育活動に反映させます。
- ウ 地域の教育力を積極的に活用しながら、地域ならではの創意や工夫を生かした特色ある学校づくりを進めるとともに、地域を支える人材の育成に取り組みます。

#### ◇ 推進計画

- ア 特例校をコミュニティ・スクールとします。
- イ 特例校以外の高校についても、各高校や地域の実情等に応じてコミュニティ・スクールとすることを検討します。

#### ◇ 実行計画

特例校については、特例校とする年度にコミュニティ・スクールとします。

#### 【コミュニティ・スクール（学校運営協議会の設置）】

対象高校	設置年度	再編の概要
日光明峰高校	H30年度	・ 2 学級特例校
馬頭高校	H30年度	・ 3 学級特例校

### 3 定時制高校・通信制高校の規模と配置の適正化

多様な生徒のニーズに応えられる学習環境等の整備や、社会的自立に向けた教育や支援の充実に努めるとともに、規模や配置についても検討します。

#### ◇ 基本的な考え方

- ア 定時制・通信制は、勤労青少年の学びの場に加え、不登校経験者や高校中退者等の学び直し、再チャレンジの場としての役割も重視し、より柔軟な学習時間帯とするなど、多様な生徒のニーズに応えられる学習環境等の整備や、社会的自立に向けた教育や支援の充実に努めます。
- イ 定時制高校の規模や配置については、広域での統合を伴う新たなフレックス・ハイスクールを設置するのではなく、生徒のニーズや通学の実態などを考慮しながら、各通学圏ごとに検討します。
- ウ 通信制高校については、スクーリング\*等に通学しやすい環境となるよう学校の配置や規模、協力校\*の設置などについて研究を進めます。

---

【スクーリング】通信制高校においては、各教科・科目のレポート添削指導、面接指導及び試験により教育を行うものとされており、この登校による面接指導をスクーリングと呼びます。

【協力校】通信制高校（実施校）の遠隔地に居住する生徒の通学の便宜を図るため、スクーリングや試験等に協力する高校（協力校）の設置が認められています。

## ◇ 推進計画

- ア 全日制高校に併置された定時制においては、全日制の施設、教室等の使用状況を見ながら、定時制の専用教室や専用フロアなどの確保に努め、生徒にとって居心地のよい学習環境を整えます。
- イ 1学年2学級分の専用教室が確保できる定時制高校では、高まっている昼間の学習ニーズに応えるため、新たに午後部を設置し、昼夜間の二部制定時制高校に改編します。また、三年間での卒業を目指して、他の部の授業を選択履修することも可能とします。
- ウ 1学年1学級分の専用教室が確保できる定時制高校では、柔軟な学習時間帯とするため、夜間の4時間の授業に加え、夕方にも2時間の授業を開設します。このことにより、自分の学習時間帯を、夕方から4時間、夜間のみ4時間、夕方・夜間6時間の3つから選択することを可能とします。なお、1日6時間の学習を選択した場合、三年間での卒業も可能となります。
- エ 地域の生徒の減少や生徒のニーズを踏まえ、定時制高校の学級減や学科の転換を行います。その際、普通科に転換する場合は、基礎的・基本的な知識の修得とともに、社会的・職業的自立に向けて、学校の特色に応じ、工業や商業など職業に関する科目も開設します。
- オ 定時制の統合については、生徒のニーズや通学圏などを考慮しながら、二部制定時制など、生徒のニーズに応えられる魅力ある学校づくりとなるよう引き続き検討します。
- カ 定時制・通信制で学ぶ様々な困難を抱える生徒にきめ細かく対応できるよう、スクールカウンセラー\*やスクールソーシャルワーカー\*等の専門スタッフの配置や派遣など支援・相談体制の充実に努めます。

---

【スクールカウンセラー】児童生徒の臨床心理について専門的な知識及び経験を有し、不登校や問題行動等に関して、児童生徒の悩みや不安に対する相談や教員及び保護者に対する助言・援助等を行うことにより、学校の教育相談体制を支援します。

【スクールソーシャルワーカー】社会福祉等の専門的な知識・技術を活用し、問題を抱えた児童生徒を取り巻く環境に働きかけ、家庭、学校、地域の関係機関をつなぎ、児童生徒の悩みや抱えている問題の解決に向けて支援します。

## ◇ 実行計画

- ア 平成32年度から、宇都宮工業高校の定時制に新たに午後部を設置し、昼夜間の二部制定時制とします。なお、午後部は普通科1学級とし、夜間部はこれまでの工業技術科2学級を1学級に減じます。普通科では、工業に関する科目も選択できるような教育課程を工夫します。
- イ 平成31年度から足利工業高校と真岡高校の定時制に、平成32年度から鹿沼商工高校の定時制に、夜間の4時間の授業に加え、それぞれ夕方にも2時間の授業を開設します。
- ウ 平成31年度から学悠館高校の商業科の募集を停止します。また、平成32年度に鹿沼商工高校定時制の商業科を普通科に転換します。いずれの場合においても、普通科において商業科目を選択し学べるよう、教育課程を工夫します。
- エ 学科転換や閉科を伴わない学級減については、原則として、実施の前年度に公表します。

【定時制高校の再編】

対象高校	実施年度	授業時間帯	設置学科	再編の概要
宇都宮工業高校	H32年度	午後 夜間	普通科 工業技術科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昼夜間の二部制定時制</li> <li>・工業技術科 1 学級減</li> </ul>
鹿沼商工高校	H32年度	夕夜間	普通科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商業科から普通科へ 学科転換</li> <li>・夕夜 6 時間の授業を 開設</li> </ul>
学悠館高校	H31年度	午前 午後 夜間	普通科 普通科 普通科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商業科の募集停止</li> </ul>
足利工業高校	H31年度	夕夜間	工業技術科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夕夜 6 時間の授業を 開設</li> </ul>
真岡高校	H31年度	夕夜間	普通科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夕夜 6 時間の授業を 開設</li> </ul>



## 第二期県立高等学校再編計画【実行計画総括表】

項目	再編の内容	実行計画					
		平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	
1. 全日制高校の規模と配置の適正化	(2) 規模の特例 (特例校)	日光明峰 馬頭	(地域の生徒減や入学者数の状況等に応じ実施) 益子芳星      茂木      黒羽      那須				
	(3) 学校の統合					足利 足利女子	
	(4) 男女別学校の共学化					宇都宮中央 女子  足利 足利女子	
	(5) 学科の構成と配置の適正化	農業		栃木農業 (農業5学科の4学科への改編)	小山北桜 (園芸科学科・造園土木科の改編)		
		工業		栃木工業 (電子科・情報技術科の改編)	足利工業 (電気科・電子機械科の改編)  那須清峰 (電気科・情報技術科の改編)  (電子機械科の名称変更)		
商業					足利清風 (情報処理科の募集停止)		
福祉			佐野松桜 真岡北陵 矢板 (学科名の変更・統一)		小山城南 (福祉系列の充実)	黒磯南 (福祉系列の導入)	
2. 特色化の推進	(2) 単位制高校	進学に重点				宇都宮中央 女子(共学校)  足利 足利女子	
		多様な学びに重点	馬頭	(3学級特例校に合わせ導入) 益子芳星      黒羽      那須			
	(3) コミュニティ・スクール	日光明峰 馬頭	(特例校に合わせ導入) 益子芳星      茂木      黒羽      那須				
3. 定時制高校・通信制高校の規模と配置の適正化	午後部の設置 (昼夜間二部制)			宇都宮工業 (午後部 普通科を設置)			
	夕夜6時間の授業開設 (夕夜間定時制)		足利工業 真岡	鹿沼商工			
	学科転換・募集停止(閉科)		学悠館 (Ⅲ部商業科募集停止)	鹿沼商工 (商業科を普通科へ転換)			

※ 番号は本文に準拠

通常の学級減については記載していない。

## < 参 考 資 料 >

- 1 第一期県立高校再編計画(平成17～26年度)の概要
- 2 栃木県教育振興基本計画2020 ―教育ビジョンとちぎ―
- 3 県立高校配置図(平成29年度)
- 4 中学校卒業(見込み)者数と県立高校全日制の募集定員・1学年学級数の変遷
- 5 県立高校全日制の地区別募集学級数見込み(地区毎の減少率によるH34、H39の試算)
- 6 平成29年度県立高校全日制の地区別学科別募集学級数等(普通科は除く)
- 7 県立高校の男女共学・別学についてのアンケート集計結果
- 8 県立高校定時制の入学者数等の推移
- 9 県立高校定時制の1年次在籍生徒数等の推移(H20～H29)
- 10 「県立高校再編に関する検討会議」からの提言の概要(H28.3.2)



# 第一期県立高校再編計画（平成17～26年度）の概要

## ◇ 新しいタイプの学校の設置

学校種	前期実行計画				後期実行計画				新しいタイプ学校数					
	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	再編前	再編	再編後	
中高一貫教育校			宇都宮東高	佐野高				矢板東高			0	3	3	
総合学科高校		小山城南高							黒磯南高		4	2	6	
科学技術高校							宇都宮工高				0	1	1	
総合産業高校					小江北桜高						0	1	1	
総合選択制高校		高根沢高 →高根沢高	(足利西高 足利商高 →足利清風高)	(鳥山高 鳥山女子高 →鳥山高)	(栗野高 鹿沼農高 →鹿沼南高)						0	3	3	
フレックス・ハイスクール			学悠館高				県央以北の設置校 → 計画実施を見送り				0	1	1	
											計	4	11	15

## ◇ 男女共学化の推進

項目	前期実行計画				後期実行計画				男女別学高校数				
	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	再編前	共学化	再編後
男女共学		小山城南高 小山高(普)	足利西高 (足利商高と統合)	(鳥山高 鳥山女子高 →鳥山高)	H21	宇都宮東高	佐野女子高 →佐野東高 佐野高				1	8	7

《再編後の別学校》

男子校 宇都宮高、栃木高、足利高、真岡高、大田原高  
女子校 宇都宮女子高、宇都宮中央女子高、栃木女子高、足利女子高、真岡女子高、大田原女子高

## ◇ 全日制高校の規模と配置の適正化

項目	前期実行計画				後期実行計画				全日制高校数					
	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	再編前	統合数	再編後	
学校の統合	(足尾高 日光高 →日光明峰高) (芳賀高 益子高 →益子芳星高)	(藤岡高 栃木南高 →栃木翔南高) (喜連川高 氏家高 →さくら清修高)	(足利西高 足利商高 →足利清風高)	(鳥山高 鳥山女子高 →鳥山高)	(栗野高 鹿沼農高 →鹿沼南高)		(田沼高 佐野松陽高 →佐野松桜高) (塩谷高 矢板高 →矢板高)					6	8	9

## ◇ 定時制・通信制高校の規模と配置の適正化

項目	前期実行計画		
	H17	H18	H19
定時制高校 (学悠館高に統合)		小山高 栃木高 佐野高 足利高	
通信制高校 (学悠館高に定員の 一部を移設)	宇都宮高		

《現在(H29)の定時制高校》

宇都宮工業高、宇都宮商業高、鹿沼商工高、学悠館高、足利工業高、真岡高、大田原東高校、矢板東高校 計8校

《現在(H29)の通信制高校》

宇都宮高、学悠館高 計2校

# 栃木県教育振興基本計画2020

—教育ビジョンとちぎ—

## 施策体系

基本  
理念

とちぎから世界を見つめ  
地域とつながり 未来に向かって  
ともに歩み続ける人間を育てます

3つの基本目標

学びの基盤を  
つくる

志を立て未来を  
つくる

育ちあえる絆を  
つくる

15の基本施策

1 確かな学びを育む  
教育の充実

6 自分の生き方を考える  
教育の充実

11 人権尊重の精神を  
育む教育の充実

2 豊かな心を育む  
教育の充実

7 地域についての理解を  
深める教育の充実

12 県民一人一人の  
生涯学習への支援

3 健やかな体を育む  
教育の充実

8 伝統や文化に関する  
教育の充実

13 学校・家庭・地域の  
連携による教育の充実

4 特別支援教育の充実

9 グローバル化に対応した  
教育の充実

14 地域全体で支える  
家庭教育への支援

5 幼児教育の充実

10 社会に参画する力を育む  
教育の充実

15 スポーツを通じた  
教育の充実

### 基本施策推進のための教育環境づくり

①教員の資質・  
能力の向上

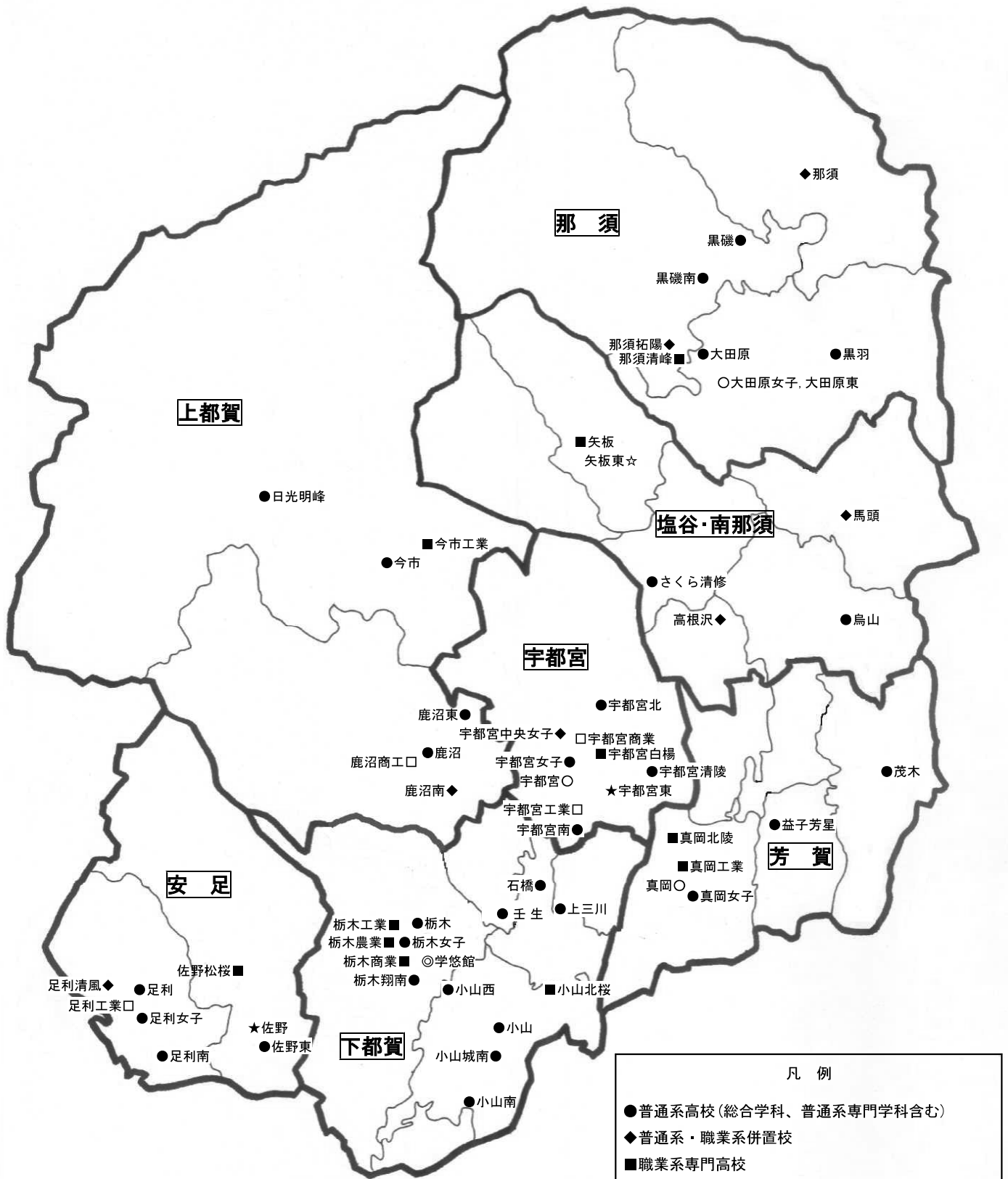
②学校の指導体制の整備

③社会の変化に対応した  
特色ある学校づくり

④学校施設・設備の整備と  
学校の安全管理

⑤青少年教育施設と  
スポーツ施設の整備

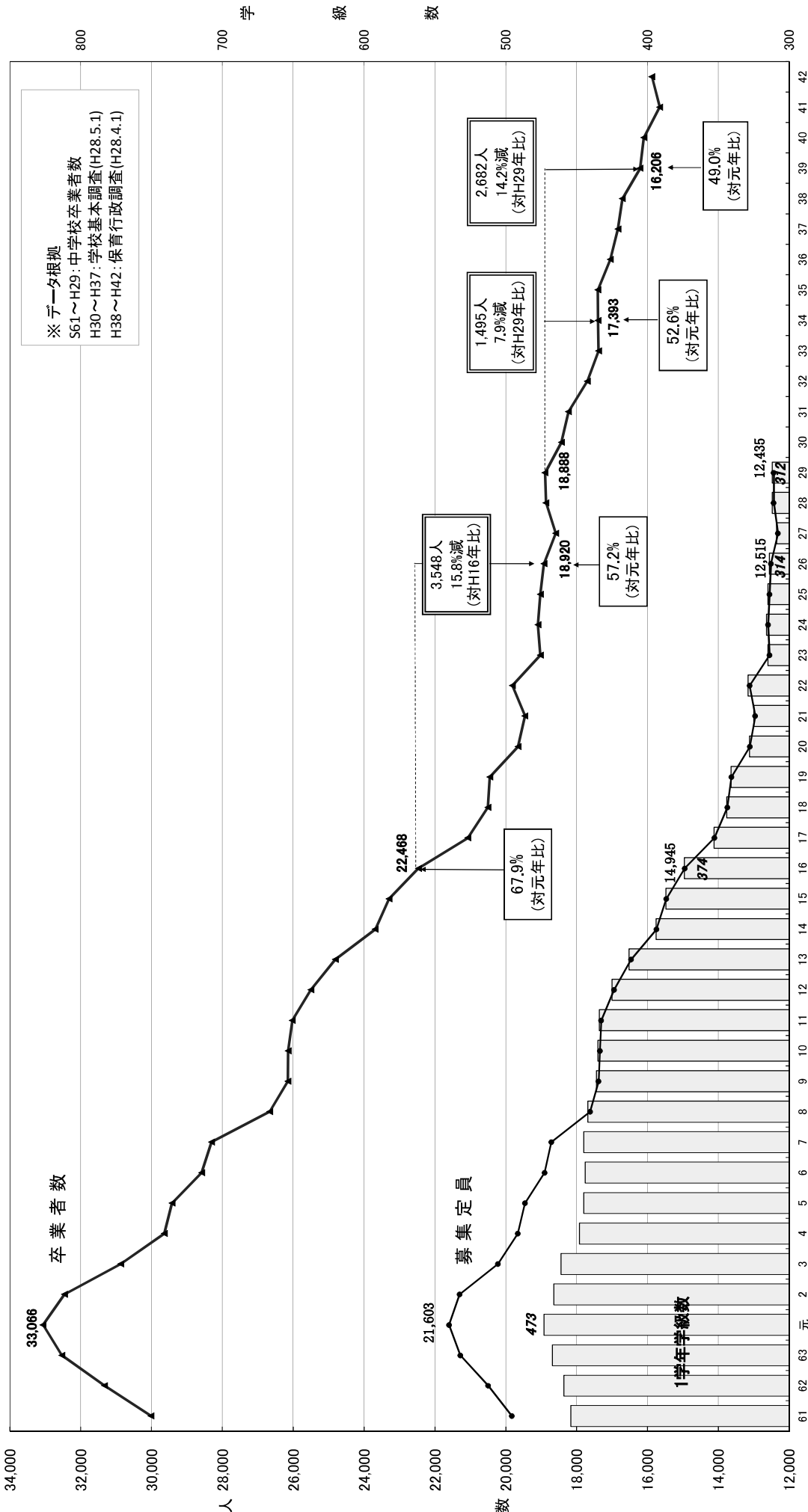
# 県立高校配置図（平成29年度）



※太線は旧学区を表します。

凡 例	
●	普通系高校 (総合学科、普通系専門学科含む)
◆	普通系・職業系併置校
■	職業系専門高校
★	中高一貫教育校
◎	フレックス・ハイスクール (白抜きは定時制・通信制の併置校)

# 中学校卒業(見込み)者数と県立高校全日制の募集定員・1学年学級数の変遷



年度	61	62	63	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
県立高校数(全日)	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68	64	63	62	61	61	59	59	59	59	59	59
1学年学級数	454	459	467	473	466	461	448	445	444	445	442	436	435	434	425	413	394	387	374	353	344	341	328	325	329	315	316	315	314	309	312	312
1学年平均学級数	6.7	6.8	6.9	7.0	6.9	6.8	6.6	6.5	6.5	6.4	6.4	6.4	6.4	6.4	6.3	6.1	5.8	5.7	5.5	5.3	5.4	5.4	5.3	5.3	5.3	5.4	5.3	5.4	5.3	5.2	5.3	5.3
1学級平均生徒数	43.7	44.7	45.6	45.7	45.7	43.9	43.9	43.7	42.6	42.0	39.9	39.9	39.9	39.9	39.9	39.9	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	39.9	39.9	39.9	39.9	39.9	39.9	39.9	39.9	39.9

# 県立高校全日制の地区別募集学級数見込み（地区毎の生徒減少率によるH34、H39の試算）

※H34、H39年の中卒見込者数は当該年度の前年との平均値としている

年度		H29			H34	H39
宇都宮	中卒見込者数	4,962			4,850	4,785
	対H29比率	100.0%			97.7%	96.4%
		学級数	学科	備考		
	1 宇都宮	7	普	男子	計 70	合計学級数 69程度
	2 宇都宮東	4	普	中高		
	3 宇都宮南	8	普			
	4 宇都宮北	8	普			
	5 宇都宮清陵	7	普			
	6 宇都宮女子	7	普	女子		
	7 宇都宮中央女子	7	普家	女子		
8 宇都宮白楊	7	農工商	総専			
9 宇都宮工業	8	工	科技			
10 宇都宮商業	7	商				
<b>平均学校規模</b>		<b>7.0</b>			<b>6.9</b>	<b>6.7</b>
上都賀	中卒見込者数	1,636			1,503	1,310
	対H29比率	100.0%			91.9%	80.1%
		学級数	学科	備考		
	1 鹿沼	6	普		計 34	合計学級数 30程度
	2 鹿沼東	5	普			
	3 鹿沼南	5	普農家	総選		
	4 鹿沼商工	5	工商			
	5 今市	5	総			
6 今市工業	4	工				
7 日光明峰	4	普				
<b>平均学校規模</b>		<b>4.9</b>				
下都賀	中卒見込者数	4,634			4,248	4,017
	対H29比率	100.0%			91.7%	86.7%
		学級数	学科	備考		
	1 上三川	4	普		計 71	合計学級数 65程度
	2 石橋	6	普			
	3 小山	6	普理			
	4 小山南	4	普体			
	5 小山西	5	普			
	6 小山北桜	5	農工商	総産		
	7 小山城南	5	総			
	8 栃木	6	普	男子		
	9 栃木女子	6	普	女子		
	10 栃木農業	5	農			
	11 栃木工業	5	工			
12 栃木商業	5	商				
13 栃木翔南	5	普				
14 壬生	4	普				
<b>平均学校規模</b>		<b>5.1</b>			<b>4.6</b>	<b>4.4</b>

学科	備考
普通系学科	男子…男子校
普…普通科	女子…女子校
理…理数科	中高…中高一貫教育校
体…体育科	総専…総合選択制専門高校
総…総合学科	総選…総合選択制高校
職業系学科	科技…科学技術高校
農…農業科	総産…総合産業高校
工…工業科	
商…商業科	
水…水産科	
家…家庭科	
福…福祉科	

年度		H29			H34	H39		
安足	中卒見込者数	2,629			2,237	1,994		
	対H29比率	100.0%			85.1%	75.8%		
		学級数	学科	備考				
	1 佐野	4	普	中高	計 40	合計学級数 34程度		
	2 佐野東	6	普					
	3 佐野松桜	6	農工商	総専				
	4 足利	5	普	男子				
	5 足利南	4	総					
	6 足利女子	5	普	女子				
	7 足利工業	5	工					
8 足利清風	5	普商	総選					
<b>平均学校規模</b>		<b>5.0</b>					<b>4.3</b>	<b>3.7</b>
芳賀	中卒見込者数	1,345					1,316	1,221
	対H29比率	100.0%			97.8%	90.8%		
		学級数	学科	備考				
	1 真岡	5	普	男子	計 27	合計学級数 26程度		
	2 真岡女子	5	普	女子				
	3 真岡北陵	5	農商	総専				
	4 真岡工業	4	工					
5 益子芳星	4	普						
6 茂木	4	総						
<b>平均学校規模</b>		<b>4.5</b>					<b>4.3</b>	<b>4.0</b>
那須	中卒見込者数	2,123			1,852	1,772		
	対H29比率	100.0%			87.2%	83.5%		
		学級数	学科	備考				
	1 大田原	6	普	男子	計 41	合計学級数 37程度		
	2 大田原女子	6	普	女子				
	3 黒羽	4	普					
	4 那須拓陽	6	普農家					
	5 那須清峰	6	工商	総専				
	6 那須	4	普商					
7 黒磯	5	普						
8 黒磯南	4	総						
<b>平均学校規模</b>		<b>5.1</b>					<b>4.6</b>	<b>4.3</b>
塩谷・南那須	中卒見込者数	1,559			1,385	1,239		
	対H29比率	100.0%			88.8%	79.5%		
		学級数	学科	備考				
	1 矢板	5	農工商	総専	計 29	合計学級数 27程度		
	2 矢板東	4	普	中高				
	3 高根沢	5	普商	総選				
	4 さくら清修	6	総					
5 烏山	5	普						
6 馬頭	4	普水						
<b>平均学校規模</b>		<b>4.8</b>					<b>4.5</b>	<b>4.0</b>

年度		H29			H34	H39
県全体	中卒見込者数	18,888			17,391	16,338
	対H29比率	100.0%			92.1%	86.5%
	学級数見込	312			288	266
	学級減数(対H29)	—			▲ 24	▲ 46
<b>平均学校規模</b>		<b>5.3</b>			<b>4.9</b>	<b>4.5</b>
<b>学科の割合</b>		普通系68.8:職業系31.2				

\*学科の割合は募集定員による



# 平成29年度 県立高校全日制の地区別学科別募集学級数等（普通科は除く）

○数字は募集学級数。最右列の【 】内は総募集定員に占める各学科の定員割合。

	宇都宮	上都賀	下都賀	安足	芳賀	那須	塩谷・南那須	学級数計
農業	自営者養成系	農業経営①(宇白)	食料生産①(鹿南)	園芸科学①(北桜) 農業①(栃農)	生物生産①(北陵)	農業経営①(那拓)	農業経営①(矢板)	20 【6.4%】
	生物工学系	生物工学①(宇白)		生物工学①(栃農)		生物工学①(那拓)		
	食品化学系	食品科学①(宇白)		食品化学①(栃農)	食品科学①(北陵)	食品化学①(那拓)		
	造園土木系	農業工学①(宇白)	環境緑地①(鹿南)	造園土木①(北桜) 農業土木①(栃農)				
工業	他			生活科学①(栃農)	農業機械①(北陵)			
	機械系	機械②(宇工) 電子機械①(宇工)	機械②(今工)	機械②(足工) 電子機械①(足工) 情報制御②(松桜)	機械①(真工) 生産機械①(真工)	機械①(清峰) 電子機械①(清峰)	機械①(矢板)	
	電気・電子・ 情報系	電気①(宇工) 電子情報①(宇工) 情報技術①(宇白)	電気①(今工) 情報科学①(鹿商工)	電気①(栃工) 電子①(栃工) 情報技術①(栃工)	電気①(足工)	電気①(清峰) 情報技術①(清峰)	電子①(矢板)	
	建築・土木系	建築デザイン①(宇工) 環境土木①(宇工)	建設工学①(今工)	建築システム①(北桜)		建設①(真工)	建設工学①(清峰)	
	他	環境設備①(宇工)			産業デザイン①(足工)			
商業	商業系	商業⑤(宇商) 流通経済①(宇白)	商業④(鹿商工)	総合ビジネス①(北桜) 商業④(栃商)	総合ビジネス①(北陵)	商業①(清峰)	商業③(高根沢)	29 【9.3%】
	情報処理系	情報処理②(宇商)		情報処理①(栃商)				
	他					リゾート観光①(那須)		
水産							水産①(馬頭)	1【0.3%】
家庭	家政系	総合家庭①(宇中女)	ライフデザイン①(鹿南)	生活文化①(北桜)	家政①(松桜)			7 【2.2%】
	他	服飾デザイン①(宇白)				食文化①(那拓)	栄養食物①(矢板)	
福祉				社会福祉①(松桜)	教養福祉①(北陵)		社会福祉①(矢板)	3【1.0%】
普通系 専門								3【1.0%】
	総合学科		総合学科⑤(今市)	総合学科⑤(小城)	総合学科④(足南)	総合学科④(黒南)	総合学科⑥(さくら)	28【9.0%】

## 県立高校の男女共学・別学についてのアンケート集計結果

回答者数	実施年度	中学2年生	高校2年生	中学生の保護者	高校生の保護者	県政世論調査
	H27年	1,196	1,201	1,190	1,182	1,316
	H14年	1,147	1,204	1,138	1,189	1,328

### 【質問1】男女共学と男女別学のどちらの考え方に賛成ですか。

	選択肢	実施年度	中学2年生	高校2年生	中学生の保護者	高校生の保護者	県政世論調査
1	男女共学に賛成である	H27年	45.5%	46.5%	45.0%	48.6%	40.5%
		H14年	37.8%	48.3%	46.1%	44.8%	52.3%
2	どちらかというとなら男女共学に賛成である	H27年	24.7%	19.8%	26.7%	21.5%	22.8%
		H14年	30.5%	25.9%	30.1%	28.3%	21.5%
3	どちらともいえない	H27年	23.2%	23.1%	19.7%	19.0%	26.4%
		H14年	24.5%	15.5%	14.6%	13.3%	12.3%
4	どちらかというとなら男女別学に賛成である	H27年	4.5%	6.2%	5.8%	6.6%	5.2%
		H14年	5.4%	5.5%	6.2%	7.7%	7.2%
5	男女別学に賛成である	H27年	2.0%	4.2%	2.8%	4.1%	2.2%
		H14年	1.7%	4.7%	2.5%	5.5%	4.7%

### 【質問2-1】共学に賛成する主な理由は何ですか。【質問1】で1,2を選んだ方のみ回答。2つまで選択可

	選択肢	実施年度	中学2年生	高校2年生	中学生の保護者	高校生の保護者	県政世論調査
1	男女が一緒に学ぶ方がより自然であると思う	H27年	56.1%	51.7%	58.5%	61.7%	62.7%
		H14年	66.5%	55.7%	62.3%	63.6%	60.2%
2	男性・女性にとらわれることなく、個性や能力を発揮できる社会づくりのために必要だと思う	H27年	56.1%	63.7%	74.4%	75.8%	65.2%
		H14年	51.9%	56.7%	74.2%	74.2%	58.2%
3	異性が互いに理解できると思う(*1)	H27年	21.9%	31.1%	33.2%	33.5%	30.6%
		H14年	17.2%	25.4%	39.2%	44.0%	31.5%
4	男女共学の方が楽しいと思う	H27年	57.8%	46.5%	27.3%	23.6%	17.6%
		H14年	62.2%	56.5%	21.3%	16.3%	16.5%
5	その他	H27年	3.0%	1.3%	2.6%	1.3%	1.8%
		H14年	0.9%	2.6%	1.0%	0.5%	0.5%

### 【質問2-2】別学に賛成する主な理由は何ですか。【質問1】で4,5を選んだ方のみ回答。2つまで選択可

	選択肢	実施年度	中学2年生	高校2年生	中学生の保護者	高校生の保護者	県政世論調査
1	異性の目を気にすることなく、学習や部活動に集中できると思う	H27年	76.9%	72.0%	70.6%	63.8%	65.3%
		H14年	65.4%	69.7%	69.4%	59.9%	61.4%
2	異性に頼ることなく、自分で解決しようとする自主性・自立性が身につくと思う(*2)	H27年	28.2%	23.2%	21.6%	29.9%	24.5%
		H14年	37.0%	23.8%	39.8%	45.2%	41.1%
3	男女別学で築かれた伝統・校風は変えない方がよいと思う(*3)	H27年	35.9%	35.2%	78.4%	69.3%	69.4%
		H14年	45.7%	53.3%	77.6%	75.2%	55.7%
4	男女別学の方が楽しいと思う	H27年	48.7%	55.2%	14.7%	11.0%	10.2%
		H14年	50.6%	44.3%	14.3%	10.2%	10.1%
5	その他	H27年	0.0%	5.6%	8.8%	9.4%	6.1%
		H14年	3.7%	4.1%	2.0%	4.5%	1.3%

### 【質問3】本県の県立高校の今後のあり方についてどのように考えますか。

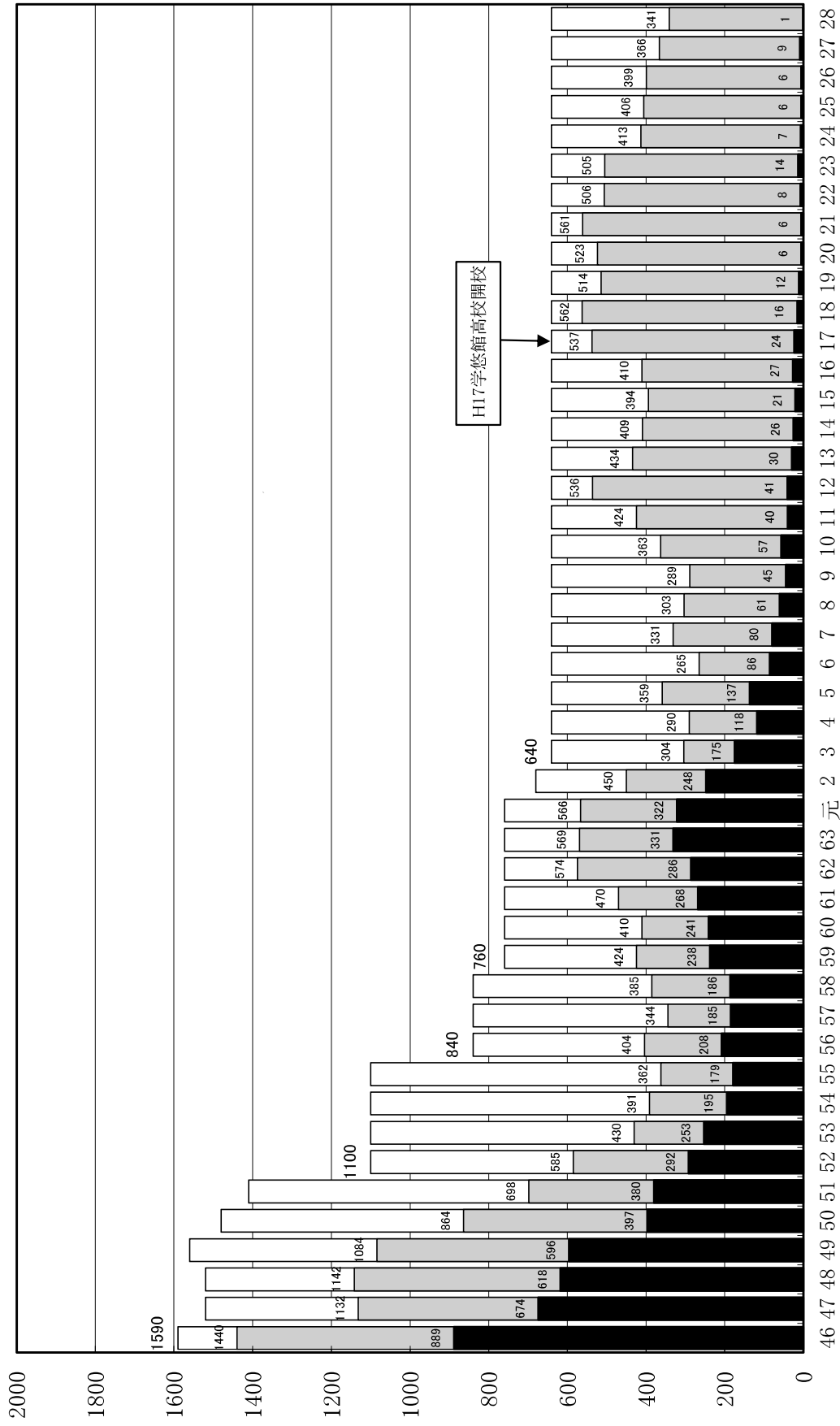
	選択肢	実施年度	中学2年生	高校2年生	中学生の保護者	高校生の保護者	県政世論調査
1	男女共学校と男女別学校の両方あるのがよい	H27年	54.8%	57.9%	46.1%	48.8%	34.4%
		H14年	37.8%	40.9%	34.0%	34.9%	34.7%
2	どちらかというとなら男女共学校と男女別学校の両方あるのがよい	H27年	18.7%	21.2%	30.4%	28.6%	26.4%
		H14年	25.5%	26.6%	30.8%	30.1%	25.2%
3	わからない	H27年	14.0%	10.8%	7.2%	7.4%	18.2%
		H14年	16.4%	9.8%	4.8%	6.6%	8.3%
4	どちらかというとなら男女共学校がよい	H27年	8.9%	6.2%	12.6%	10.4%	13.8%
		H14年	13.6%	15.5%	22.8%	22.0%	21.5%
5	すべて男女共学校がよい	H27年	3.6%	3.7%	3.6%	4.7%	4.0%
		H14年	6.5%	7.2%	7.4%	6.4%	7.5%

\*1 平成14年では「異性が互いに理解できると思うから」は「男性と女性の特性が理解できると思うから」としていた。

\*2 平成14年では「異性に頼ることなく、自分で解決しようとする自主性・自立性が身につくと思うから」は「異性に頼ることなく、何事も自分で解決しようとする自主性・自立性が身につく、個々の能力を発揮できるようになると思うから」としていた。

\*3 平成14年では「男女別学で築かれた伝統・校風は、変えない方がよいと思うから」は「男女別学で築かれた伝統・校風にはそれぞれ魅力があり、変えない方がよいと思うから」としていた。

# 県立高校定時制の入学者数等の推移



□ 定時制課程募集定員

■ 就職しながらの高校進学者数(含県内通信制・県外定時制通信制)

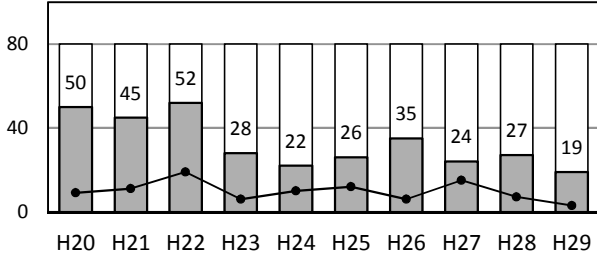
□ 定時制課程入学者数(過年度卒含む)

H17学悠館高校開校

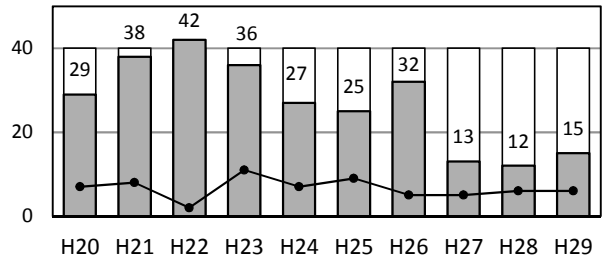
# 県立高校定時制の1年次在籍生徒数等の推移(H20~H29)

募集定員
  1年次在籍生徒数(各年5月1日現在)【表中に人数記載】  
 進学希望者数(第2回中学校3年生の進路希望調査。H22以前は第3回)  
 × フレックス特別選抜受検者数(特別選抜の定員は募集定員の50%)

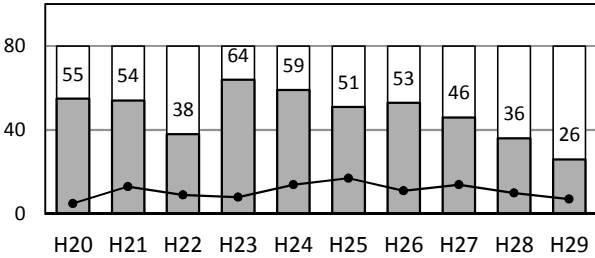
宇都宮商業高校(普通科) 定員80名



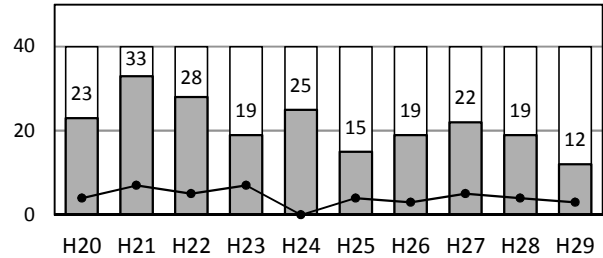
宇都宮商業高校(商業科) 定員40名



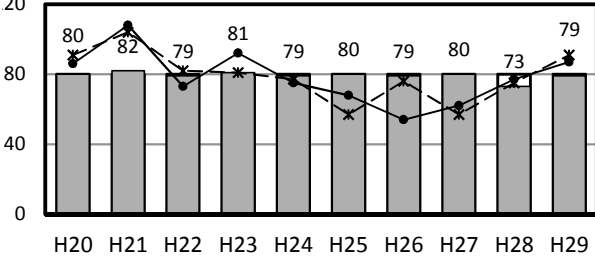
宇都宮工業高校(工業技術科) 定員80名



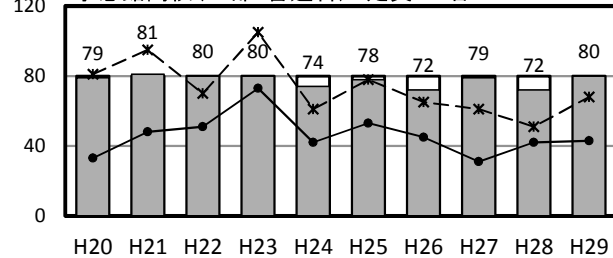
鹿沼商工高校(商業科) 定員40名



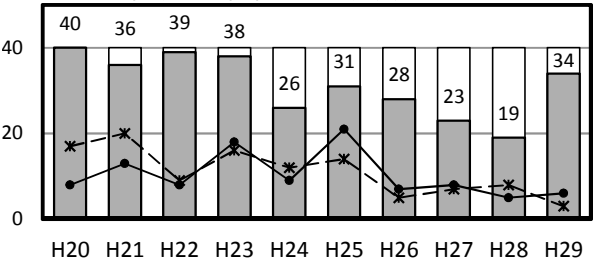
学悠館高校(Ⅰ部・普通科) 定員80名



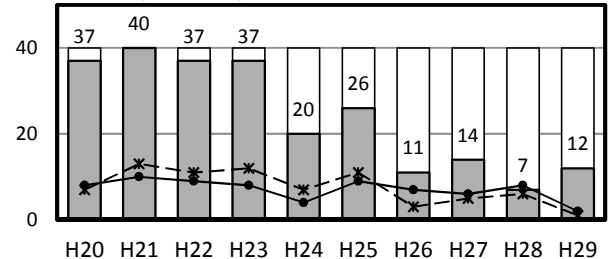
学悠館高校(Ⅱ部・普通科) 定員80名



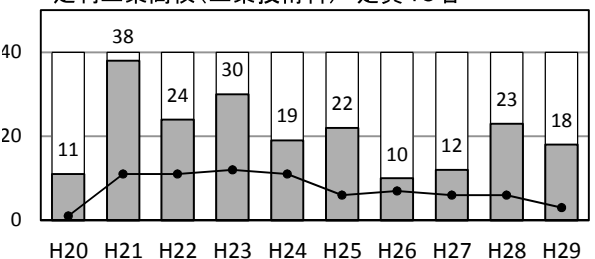
学悠館高校(Ⅲ部・普通科) 定員40名



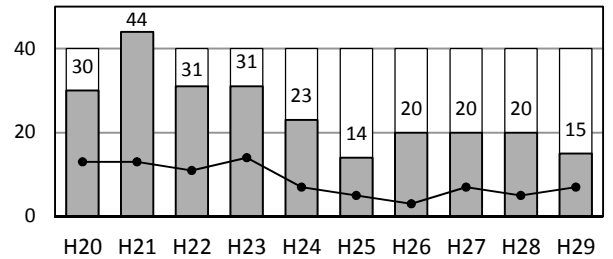
学悠館高校(Ⅲ部・商業科) 定員40名



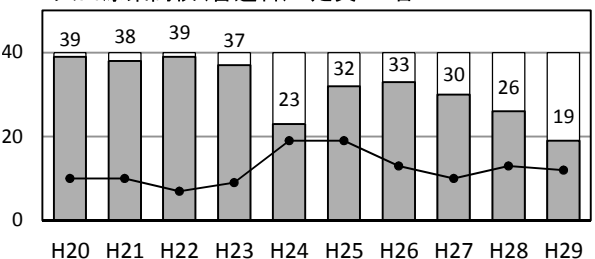
足利工業高校(工業技術科) 定員40名



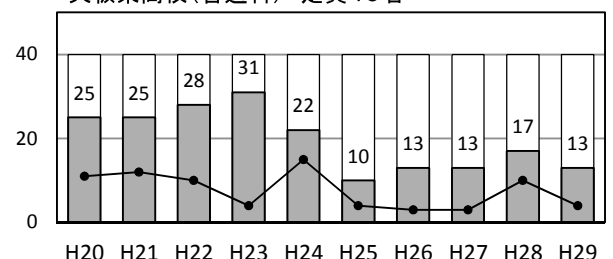
真岡高校(普通科) 定員40名



大田原東高校(普通科) 定員40名



矢板東高校(普通科) 定員40名



## 「県立高校再編に関する検討会議」からの提言の概要(H28.3.2)

### 1 全日制高校の規模と配置の適正化について

- 1学年4～8学級を適正規模とし、統合等により学校規模の維持に努めていくことが望ましいが、一部の周辺地域では特例として、適正規模未満の高校(特例校)も認めることが望ましい。また、特例を認める高校については、不公平感が生じないよう明確な基準を定める必要がある。
- 周辺地域で特例を認めて学校を維持するためには、市街地域での統合等の検討が必要である。
- 大学進学を目指す生徒が多い普通科高校は、各教科・科目の専門性に配慮して教員を配置し、切磋琢磨の中で学力の向上を図る観点から、ある程度大きな学校規模の確保に努めることが望ましい。
- 特例校については、県による特色化の支援や、地域の教育力の活用など、魅力と活力を向上させる取組により適切な教育環境を整える必要がある。また、特例校の下限は3学級とすべきとの意見が多数を占めたが、特色化と併せて総合的に検討することが望ましい。
- 将来的に特例校の入学者数が減少し、活力を維持できなくなった場合は、統合も必要である。その際、複数年の入学者数の推移等から判断するなど明確な基準を示すことが望ましい。

### 2 学科の構成と配置の適正化について

- 普通系学科と職業系学科の募集定員の割合は、現在の7：3を概ね維持することが望ましい。
- 職業系学科の構成は、産業・就業構造等の変化に対応する観点から検討することが望ましいが、介護、看護、情報分野は、内容が高度化し高校教育では限界があるので、学科設置以外での対応も含め検討することが望ましい。
- 農、工、商など各学科の教育の機会が確保されるよう、配置の適正化に努めることが望ましい。

### 3 学校の特色化・新しいタイプの学校について

- 義務教育段階の学習内容を学び直す機会やインターンシップの充実のほか、地域社会を担う人材育成を図る観点から、普通系高校でも地域の特性を生かした学びの機会の充実が必要である。
- 大学進学を目指す生徒が多い、ある程度大きな規模の高校へ単位制を導入することが望ましい。
- 中高一貫教育校の設置拡充については、他の公私立中学校に与える影響など、様々な観点を考慮しながら慎重に検討する必要がある。
- 地域の教育力を活用するため、コミュニティ・スクールの導入を検討することが望ましい。

### 4 男女共学化について

- 時代の流れを踏まえると、基本的には共学化を推進することが望ましいが、一律の共学化には課題もあるため、県民の理解を得ながら、地域の実情等に応じて推進することが望ましい。
- 別学校が小規模化し活力低下が懸念される場合は、統合と併せての共学化も必要である。また、宇都宮など男女別募集定員の片寄りのある地域は、バランスを整えることが必要である。

### 5 定時制・通信制の在り方について

- 不登校生徒等の学び直しの場合、高校教育のセーフティネットの役割を果たせるよう、定時制・通信制の特長を生かした柔軟な教育に努めるとともに、通学に配慮した配置とすることが望ましい。
- ニーズの高い昼間に学べる教育体制を整えていくため、午後から夜間などの時間帯で開講する一定規模の昼夜間定時制を設置することが望ましい。
- 昼夜間定時制の学科は、基礎的・基本的な知識を修得できるように普通科を基本とするが、社会的・職業的自立に向けて、職業に関する科目も開設することが望ましい。
- 通信制は、通信制への進学者が少ない地域への協力校等の設置を検討することが望ましい。

栃木県の県立高校再編については、下記のサイトをご覧ください。

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/m01/education/kyouikuzenpan/keikaku/koukousaihen-top.html>

# 第二期県立高等学校再編計画の概要

【平成30年度から平成34年度までの5か年計画】

平成29年11月 栃木県教育委員会

○栃木県教育委員会では、生徒数の減少など高校教育をめぐる現状と課題を踏まえ、魅力と活力ある県立高校づくりをより一層推進するため、「第二期県立高等学校再編計画」を策定しました。

○本計画は、本県教育行政の基本方向を示す「栃木県教育振興基本計画2020—教育ビジョンとちぎ—」の基本施策を推進していくに当たり、その基盤となる教育環境を整備するための部門計画です。

## 高校教育をめぐる現状と課題

### ◆高校教育に対する社会の要請

- グローバル化の進展など、急速に変化し続ける社会
- 人口減少や少子高齢化の進展による経済の停滞や社会の活力低下の懸念
- 中山間地域など県の周縁部における地域を支える諸活動の担い手不足
- 高校の地域振興に果たす役割への期待の高まり

- 生徒一人一人が社会的・職業的に自立するとともに、自己実現を目指して生涯学び続けていける力を育むこと
- 主体的に社会に参画し、多様な人々と協働しながら、持続可能な社会づくりに貢献できる人材を育成すること
- 地域との連携を図りながら、郷土愛や地域貢献意識を育み、地元産業や地域社会を担う人材を育成すること
- 本県産業のバランスの良い持続的発展に向け、企業等との連携を図りながら、各産業を担う人材を育成することなどが求められています。

### ◆県立高校の現状と課題

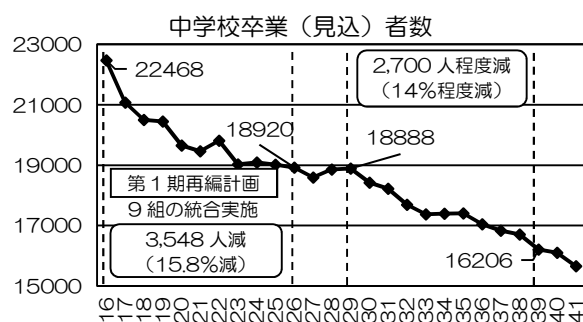
#### 【生徒の多様化】

- 高校等への高い進学率（98%超で推移）
- 生徒の目的意識や興味・関心、進路希望、能力・適性等の多様化

- 生徒一人一人が夢の実現に向け、意欲的に高校生活を送れるよう多様な学びのニーズに応える取組の推進が求められています。

#### 【生徒数の減少】

- 平成39年の中卒見込者数は16,200人程度（平成29年比で2,700人〔14%〕程度減）
- 学級減のみで対応すると高校の小規模化が進行
- 小規模化は、生徒同士の切磋琢磨の機会が減少するとともに、多様なニーズに応じた教育が困難になるなど、教育の質の低下に繋がる懸念



- 教育の質の維持・向上を図り、生徒が社会的に自立し、主体的に社会に参画し生きていける力を培える教育環境を確保するため、適正な学校規模の維持に努めていくことが必要です。
- 一方、高校教育の質の確保と併せて、周辺地域の子供たちの高校教育を受ける機会の確保についても配慮することが必要です。
- 生徒数減少が見込まれる中においても、生徒の興味・関心や進路希望、県民の要請や地域の期待に応える特色ある学校・学科を、各地域においてバランス良く配置できるよう努めていくことが必要です。

#### 【定時制・通信制の役割の変化】

- 不登校経験者や高校中退経験者、特別な支援を必要とする生徒など、多様な生徒が在籍
- 働きながら高校進学を希望する中学生は若干名

- 多様な生徒のニーズに応えられる学習環境の整備や、困難を抱える生徒の自立支援の充実が求められています。

# 魅力と活力ある県立高校づくり

## 1 全日制高校の規模と配置の適正化

### (1) 規模の適正化

○1学年4学級から8学級を適正規模とし、適正規模の維持が困難または将来困難となることが見込まれる学校を中心に統合することなどにより、適正な学校規模の維持に努めます。

### (2) 規模の特例（特例校）

○適正規模の維持が困難または将来困難となることが見込まれる学校であっても、**県の周縁部に位置し、中山間地域など通学不便な地域**が学校周辺に広がり、**近隣に他の高校がない学校は**、特例として、1学年3学級または2学級で生徒を募集します。

○特例校では、**学校運営協議会制度を導入**するなど、地域と一体となって魅力ある学校づくりや**地域を支える人材育成**に取り組み、生徒の確保に努めます。

○入学者が募集定員を下回り、将来的にも生徒の確保が困難と見込まれる場合は、次のとおりとします。

〔3学級特例校〕地元地域とも十分に協議し、統合などを行い募集を停止するか、2学級特例校とします。

〔2学級特例校〕2学級での生徒募集開始から3年目以降、入学者が2年連続で募集定員の3分の2未満となった場合、地元地域とも十分に協議し、原則、統合などを行い募集を停止します。

#### 【対象となる学校】

日光明峰、益子芳星、茂木、馬頭、黒羽、那須

#### ◇実行計画

対象高校	実施年度	設置学科	再編の概要
日光明峰	H30	普通	・2学級特例校 ・学校運営協議会制度導入
馬頭	H30	普通、水産	・3学級特例校 ・学校運営協議会制度導入

・左記以外の対象校は、地域の中学生数の見込みや入学者数の状況等を見ながら特例校とする年度を決定します。

### (3) 学校の統合

○各地区の生徒の減少率や、各学校の現状、今後の見通しなどを勘案し、**一部の地区で統合**を行います。

○適正規模の維持が困難と見込まれる学校や、統合により活性化が期待できる学校は統合を検討します。

○**大学進学を目指す生徒が多い普通科高校は、ある程度大きな学校規模の確保に努めます。**

地区 (全日制高校数)	中卒者 減少率	学級減 見込み	H34 平均学校規模 (特例校を除く)	統合の必要性
全県 (59)	約 8%	24 程度	4.9 学級	—
宇都宮 (10)	約 2%	1 程度	6.9 学級	統合の必要性はない見通し
上都賀 (7)	約 8%	4 程度	4.3 学級 (4.7 学級)	統合の必要性はない見通し
下都賀 (14)	約 8%	6 程度	4.6 学級	統合の必要性はない見通し
安足 (8)	約 15%	6 程度	4.3 学級	<b>1 組程度の統合を行います</b>
芳賀 (6)	約 2%	1 程度	4.3 学級 (4.8 学級)	統合の必要性はない見通し
那須 (8)	約 13%	4 程度	4.6 学級 (5.2 学級)	統合の必要性はない見通し
塩谷・南那須 (6)	約 11%	2 程度	4.5 学級 (4.8 学級)	統合の必要性はない見通し

#### ◇実行計画

対象高校	実施年度	使用校地	再編の概要
足利 足利女子	H34※1	足利女子※2 足利	・単位制導入 ・男女共学化 ・足利女子高校の敷地に <b>新校舎等を整備</b>

※1 H34年度の統合に合わせ、両校の2年生、3年生は統合新校に転学となります。

※2 主に足利女子高校の校地を使用しますが、足利高校のグラウンドや体育館も、部活動等で使用します。

### (4) 男女別学校の共学化

○男女別学校の共学化は、共学校と別学校の共存を望む**県民世論にも配慮しながら、各高校や地域の実情等**に応じて行います。

・小規模化により**活力低下が懸念される別学校**は、統合、共学化します。

・男女別募集定員に**片寄りのある地区**については、共学化を行います。

#### ◇実行計画

対象高校	実施年度	設置学科	再編の概要
足利・足利女子	H34	普通	・統合 ・単位制導入
宇都宮中央女子	H34	普通 総合家庭	・単位制導入

## (5) 学科の構成と配置の適正化

- 普通系学科と職業系専門学科の割合は、中学生の希望状況等から判断し、**7：3を概ね維持**します。
- 各職業系専門学科の割合も、各産業分野のバランス良い発展等を考慮し、**現状を概ね維持**します。
- 職業系専門学科は、**学びの機会が確保**されるよう通学圏等に配慮しながら、学級減や学科改編を行います。

【普通系学科】＜普通科＞中学生の希望状況や、学校の特色等を考慮し、各地区の生徒減少に応じて学級減  
 ＜普通系専門学科＞今後の在り方を検討      ＜総合学科＞各地域で選択肢となるよう維持

【職業系専門学科】＜農業科、工業科、商業科＞現在の**募集定員の割合を維持**

＜水産科、家庭科、福祉科＞現在の**募集定員を維持**。一部の総合学科に**福祉系列**導入

### ◇実行計画

＜普通系学科＞**16学級程度減**

＜農業科＞

対象高校	現在		学科改編後
栃木農業	農業 生物工学 農業土木 食品化学 生活科学	→ H31	植物科学 動物科学 食品科学 環境デザイン (コース制など)
	小山北桜		園芸科学 造園土木

＜工業科＞

対象高校	現在		学科改編後
栃木工業	電子 情報技術	→ H31	電子情報(コース制)
足利工業	電気 電子機械	→ H32	電気システム(コース制)
那須清峰	電気 情報技術	→ H32	電気情報(コース制)
	電子機械		機械制御(学科名変更)

＜商業科＞**3学級程度減**

対象高校	現在		学科改編後
足利清風	商業	→ H33	情報処理科目設置
	情報処理		募集停止

＜福祉科＞

対象高校	現在		学科改編後
佐野松桜	社会福祉	→ H31	介護福祉(学科名統一)
真岡北陵	教養福祉		介護福祉(学科名統一)
矢板	社会福祉		介護福祉(学科名統一)

- ・小山城南高校総合学科の福祉に関する系列の充実(H33)
- ・黒磯南高校総合学科に福祉系列を導入(H34)

## 2 特色化の推進

### (1) 各学校の特色化の推進

- 生徒の学び意欲や目的意識を高め、個性や能力の一層の伸長を図るため、各学校の特色化を推進します。
- 確かな学力の育成を図るため、生徒や学校の実態に応じて、**学び直しの指導**をより一層充実させます。
- 勤労観・職業観の育成を図るため、**インターンシップの充実**を図るとともに、生徒や学校の実態に応じて、普通系高校においても、**職業系専門科目を学べる類型を設置**するなど、教育課程の工夫に努めます。
- 地域社会を担う人材の育成を図るため、**地域の特性を生かした学びの機会を充実**させます。
- 学校間、学科間の連携や、**大学、企業、地域等と連携**した教育活動を推進します。
- SSH(スーパーサイエンスハイスクール)など国の支援事業の活用、単位制やコミュニティ・スクールの導入、県の支援事業などにより、特色化の推進を図ります。

### (2) 単位制高校

- 興味・関心や進路希望等に応じた科目を選択し学習できる単位制を**全日制普通科を中心に導入**します。
- 多様な科目の開設**等が可能な単位制の利点を生かし、個に応じた**きめ細かな教育活動**を展開します。
- 生徒や学校の実情、地域のニーズ等を踏まえながら、特色ある教育課程の編成と運用に努めます。
- 生徒が**主体的に科目を選択し学習**することを通して**意欲や能力を高め、進路実現を図る**学校を目指します。
- 早期に目的意識を明確化し、適切な科目選択ができるように、**ガイダンス機能の充実**を図ります。

- ・**大学進学を目指す生徒が多い高校や3学級特例校**に単位制を導入します。

#### ◇実行計画

対象高校	導入年度	設置学科	再編の概要
足利と足利女子の統合新校	H34	普通	・進学に重点
宇都宮中央女子(共学化した新校)	H34	普通・総合家庭	・進学に重点
馬頭	H30	普通・水産	・多様な学びに重点

- ・左記以外の3学級特例校については、特例校とする年度に単位制を導入します。



### (3) コミュニティ・スクール

- 学校と地域が一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校」づくりを進めるため、各高校や地域の実情等に応じて**学校運営協議会を設置**し、コミュニティ・スクールとします。
- 地域住民や保護者等の意見を学校運営や教育活動に反映させます。
- 地域ならではの特色ある学校づくりや**地域を支える人材育成**に取り組みます。

- ・特例校については、特例校とする年度にコミュニティ・スクールとします。
- ・特例校以外の高校も各高校や地域の実情等に応じてコミュニティ・スクールとすることを検討します。

#### ◇実行計画

対象高校	設置年度	再編の概要
日光明峰	H30	2学級特例校
馬頭	H30	3学級特例校

### 3 定時制高校・通信制高校の規模と配置の適正化

- より**柔軟な学習時間帯**とするなど、多様な生徒のニーズに応えられる学習環境等の整備や、社会的自立に向けた教育や支援の充実に努めます。
- 定時制の規模や配置については、広域での統合を伴う新たなフレックス・ハイスクールの設置ではなく、生徒のニーズや**通学の実態などを考慮**しながら、各通学圏ごとに検討します。
- 通信制については、通学しやすい環境となるよう学校の配置や協力校の設置等について研究を進めます。

- ・全日制併置の定時制は、**専用教室等の確保**に努めます。
- ・1学年2学級分の専用教室が確保できる定時制は、高まっている昼間の学習ニーズに応えるため、新たに**午後部を設置**し、**昼夜間の二部制定時制**に改編します。また、**三年間での卒業**を目指して、**他の部の授業を選択履修**することも可能とします。
- ・1学年1学級分の専用教室が確保できる定時制は、柔軟な学習時間帯とするため、夜間の4時間の授業に加え、**夕方にも2時間の授業を開設**します。このことにより、自分の**学習時間帯を**、夕方から4時間、夜間のみ4時間、夕方・夜間6時間の**3つから選択**することを可能とします。なお、1日6時間の学習を選択した場合、**三年間での卒業**も可能となります。
- ・地域の生徒の減少や生徒のニーズを踏まえ、定時制の**学級減や学科の転換**を行います。その際、普通科に転換する場合は、学校の特色に応じ、工業や商業など職業に関する科目も開設します。
- ・スクールカウンセラー等の**専門スタッフの配置や派遣**など支援・相談体制の充実に努めます。

#### ◇実行計画

対象高校	実施年度	授業時間帯	設置学科	再編の概要
宇都宮工業	H32	午後	普通	・昼夜間の二部制定時制 ・工業技術科の1学級減
		夜間	工業技術	
鹿沼商工	H32	夕夜間	普通	・商業科から普通科へ転換 ・夕夜6時間の授業を開設
学悠館	H31	午前・午後・夜間	普通	・夜間部商業科の募集停止
足利工業	H31	夕夜間	工業技術	・夕夜6時間の授業を開設
真岡	H31	夕夜間	普通	・夕夜6時間の授業を開設

#### 参考【県立高校全日制の地区別募集学級数】○数字はH29年度募集学級数

宇都宮	上都賀	下都賀		安足	芳賀	那須	塩谷・南那須
宇都宮⑦	鹿沼⑥	上三川④	栃木⑥	佐野④	真岡⑤	大田原⑥	矢板⑤
宇都宮東④	鹿沼東⑤	石橋⑥	栃木女子⑥	佐野東⑥	真岡女子⑤	大田原女子⑥	矢板東④
宇都宮南⑧	鹿沼南⑤	小山⑥	栃木農業⑤	佐野松桜⑥	真岡北陵⑤	黒羽④	高根沢⑤
宇都宮北⑧	鹿沼商工⑤	小山南④	栃木工業⑤	足利⑤	真岡工業④	那須拓陽⑥	さくら清修⑥
宇都宮清陵⑦	今市⑤	小山西⑤	栃木商業⑤	足利南④	益子芳星④	那須清峰⑥	烏山⑤
宇都宮女子⑦	今市工業④	小山北桜⑤	栃木翔南⑤	足利女子⑤	茂木④	那須④	馬頭④
宇都宮中央女子⑦	日光明峰④	小山城南⑤	壬生④	足利工業⑤		黒磯⑤	
宇都宮白楊⑦				足利清風⑤		黒磯南④	
宇都宮工業⑧							
宇都宮商業⑦							

＜問合せ先＞ 栃木県教育委員会事務局 総務課 高校再編推進担当  
〒320-8501 宇都宮市塙田 1-1-20 TEL028-623-3364 FAX028-623-3356

## 第二期県立高等学校再編計画（案）に対するパブリック・コメントの実施結果について

### 提出意見とそれに対する栃木県の考え方

「第二期県立高等学校再編計画（案）」に対するパブリック・コメントを平成29年7月6日から平成29年8月5日まで行った結果、地区別説明会での御発言や御意見の提出も含め、384名の方から計455件の御意見を頂きました。

提出された御意見を十分検討の上、それに対する県の考え方を次のとおりまとめました。

なお、類似の意見については、内容ごとにまとめています。

項目	意見の内容	意見に対する考え方
<b>1 全日制高校の規模と配置の適正化</b>		
(1) 規模の特例 (特例校) [23件]	県の周縁部の学校をまずは特例校としてでも残す案に賛成する。	高校には、生徒同士の切磋琢磨などを通して、確かな学力や豊かな人間性等を育むことが求められています。そのため、本県では1学年4学級から8学級を適正規模としました。
	魅力と活力ある学校をつくっていくためには、将来的には特例校の統合はやむを得ない。	一方で、地域を支える人材育成への期待が高まっていることから、本計画では、県の周縁部の一部の高校において、適正規模未満でも特例校として維持することとしました。
	子どもの通学の問題や高校が地域活性化へ果たす役割などを考慮し、特例校を将来にわたり存続させてほしい。	なお、生徒の確保が困難になった場合には、教育の質の向上を図る観点から統合等について地元地域と十分に協議し、その方向性を決めて参ります。
	特例校に対して、十分な予算措置や施設の整備、教員の加配などの支援をお願いしたい。	各特例校に設置する学校運営協議会の御意見も参考としながら、より一層魅力ある学校となるよう支援に努めて参ります。
	スクールバスの導入や交通費の補助など、市や県には通学しやすい環境を整備してほしい。	現在も一部の市町において、交通費の補助などの支援を頂いているところですが、今後とも、地域や学校、PTAなどとも連携を図りながら、通学に係る費用負担の軽減や利便性を高めるための検討をして参ります。
	学級定員を40人から30人や35人などに減らすことで学級数を維持できないか。	公立高校における教員数は、法律により、学級数ではなく全学年の生徒定員の総数で決まることとなっています。このため、生徒定員の総数減は、教員数の削減となり、生徒同士の切磋琢磨の機会の減少だけでなく、生徒の多様なニーズに沿った科目の設置が困難となるなど、教育の質の低下につながることから、学級定員削減による対応は困難と考えています。
	県の周縁部の子どもたちが県立高校に行くチャンスを増やすために、二次募集を行ってはどうか。	本県では、全日制の特色選抜と一般選抜、定時制、通信制の入学者選抜を重ねる日程で実施することで県立高校を複数回受検できる機会を確保しているところです。

	<p>馬頭高校において、水産科だけでなく、普通科でも全国募集をしてほしい。</p>	<p>全国から生徒を集めるためには、学校や学科の魅力と特色、そして、下宿先など地域における受入体制の充実が必要となります。地域とも連携を図りながら、全国募集の可能性について検討して参ります。</p>
<p>(2)学校の統合 ○足利高校と足利女子高校の統合・共学化 [297件]</p>	<p>統合に賛成である。進学校は6学級程度が望ましい。魅力ある学校づくりを進め、他地区に負けない高校にしてほしい。</p> <p>学級減となれば教員数も減り、科目ごとの専門性の高い教員の配置が困難になる。統合により、全科目で専門性の高い教員による授業を受けられるようにしてほしい。</p> <p>足利高校のスーパーサイエンスハイスクールの指定は、女子にとっても魅力的である。各校の特色ある教育が、性の違いによって受けられないことがないよう共学化してほしい。</p> <p>統合共学化は当然のことである。高校生という多感な時期だからこそ、男女が共に過ごし、お互いを正しく理解し合える環境とすべきである。</p> <p>少子化や男女共同参画社会の推進など時代の流れを考えると、両校の統合・共学化はやむを得ない。今を生きる子どもたちがより良い高校生活を送れることを優先してほしい。</p> <p>伝統校の統合には反対である。伝統の校歌や制服は足利女子高校卒業生や生徒の誇りである。先輩方から受け継いだ校風、歴史は何ものにも代え難いものである。</p> <p>男女別学校には、異性の目を気にせず、何事にも集中できたり、個性を発揮できたりするなどの良さがある。</p> <p>女子校における女子教育は、現代社会においても大変重要である。また、女子校で学ぶことにより、何事も男性に頼らず自立心を持ち、たくましく成長できる。</p> <p>安足地区から男女別学校の選択肢が無くなってしまうのは問題である。</p>	<p>大学進学を目指す生徒が多い普通科高校は、多様な進学希望に対応できる教育課程を編成するために必要な、各教科・科目の専門性に配慮した教員の配置ができるよう、ある程度、大きな学校規模の確保に努めることが必要と考えています。</p> <p>足利高校と足利女子高校は、地域の方々から、いわゆる進学校としての役割を期待されていますが、今後、安足地区の中学校卒業生数の減少、とりわけ足利市内の女子の減少に伴い、両校とも現在の5学級規模の維持は困難な見込みです。そして、小規模化により、各教科・科目の専門性に配慮した教員の配置や、生徒同士の切磋琢磨等の面で課題が生じ、進学校としての期待に、十分に応えられなくなることが懸念されます。</p> <p>これまで、両校は、地域の方々から、別学校として培ってきた伝統や特色、教育の成果などについて信頼を得てきたところではありますが、将来を担うこれからの子どもたちが、それぞれの進路希望を実現できるよう、より望ましい教育環境づくりを進めることが必要と判断し、両校を統合して、6学級規模程度の学校規模を確保することとしましたので御理解願います。</p> <p>また、統合に当たっては、生徒の意欲や能力を高め、進路実現を図る観点から、興味・関心や進路希望等に応じた科目を選択し学習できる単位制を導入するとともに、新校舎等を整備するなど、地域の期待に応える魅力と活力ある学校づくりに努めて参ります。</p>

<p>足利女子高校は定員割れをしていないにもかかわらず、統合となるのは理解できない。女子校のニーズは今後も高いものと推測される。</p>	
<p>「進学校は男女別学」という考えが根強い地域である。統合・共学化することで、他市や他県への流出に拍車がかかるのではないか。</p>	
<p>両校を存続させるために、まずは両校の魅力化を図るべきである。</p>	
<p>両校を4学級で維持することはできないか。小規模化を前向きに捉え、少人数教育を推進すべきである。</p>	
<p>両校を維持したまま、教員が2校を兼務し、行き来する仕組みは考えられないか。</p>	<p>専門性の高い教員が常駐できなくなることから、生徒の質問への対応や部活動の指導の面などで課題が生じてしまうほか、教員が生徒と向き合う時間が減少するなど、生徒にとっても不利益が生じるとともに、時間割の編成も困難になると考えています。</p> <p>こうした様々な面で課題があることから、実施は困難と考えています。</p>
<p>統合しても、男子部、女子部として男女を分けられないか。</p>	<p>男子部、女子部とするため、男女別募集とした場合は、入試において男女で合格ラインが異なる不公平が生じてしまいます。また、男女一括募集とした場合は入学者数が必ずしも男女均等にならないため、毎年、男女別にクラス編成することは困難になります。さらに、2・3年次に進路希望別でクラス編成する際にも支障が生じると考えています。</p> <p>こうした様々な面で課題があることから、実施は困難と考えており、全国的にも男子部、女子部に分けている公立高校はありません。</p>
<p>両校とも伝統ある学校であり、統合後も各校の伝統の存続を望む。</p>	<p>今後、同窓会を含む両校の学校関係者や地域の関係者などで組織する新校設立準備委員会において、伝統や校風など学校の尊厳に対して十分に配慮しながら、特色ある教育活動や、校名、校歌、制服、学校行事など、新しい学校づくりについて検討して参ります。</p>
<p>統合校では、両校の伝統を尊重しながらも、入学した生徒達が更に自分達で新しい伝統、校風をつくってほしい。男女共にリーダーシップを取れる校風になると良い。</p>	
<p>足利女子高校の制服だけは残してほしい。統合にあたり、一番譲れない条件である。</p>	

<p>統合新校の制服は、昔の制服にこだわらず、無くすことも含め、新しくすることを望む。</p>	
<p>烏山高校と烏山女子高校の統合時の問題点や良かった点についても踏まえてほしい。</p>	<p>烏山高校と烏山女子高校の統合のように、両校の2・3年生が統合新校に合流しない場合は、一方の高校では、1年生が入学してこないため、年々、生徒数が減少し、教員数も減少してしまいます。</p>
<p>統合時に両校の2・3年生も一斉統合をするということであり、在学中に色々な変化を経験することに保護者として不安がある。</p>	<p>一斉統合することで、そうした課題を解消できるほか、上級生に男子と女子がいるので、新入生も男女を問わず入学しやすくなったり、両校の伝統をより継承しながら新たな学校づくりを進めていけたりする利点もあると考えています。</p> <p>統合前から、学校行事や部活動等、様々な場面で交流の機会をつくるとともに、統合後も、できるだけ落ち着いた学校生活が送れるよう、教室配置等に留意して参りますので、御理解願います。</p>
<p>校舎の老朽化が進んでいるのであれば、新築した方が良い。</p>	<p>現在の両校の校舎は、老朽化が進んでいることに加え、6学級規模程度の単位制高校に必要な教室数等を確保できないことなどから、新校舎等を整備することとしました。</p>
<p>新校舎を建設するのは費用の無駄である。今のままで良い。建設の間、足利高校に設置する仮校舎や女子トイレも無駄になる。</p>	<p>駅付近の交通至便地に、高校設置に必要なまとまった土地を新たに確保することは極めて困難と考えています。</p> <p>このため、新校舎等を整備する場所は、交通の利便性等を考慮し、足利女子高校の校地としたところです。</p>
<p>新校舎は、足利女子高校の敷地ではなく、もっと交通の便の良い駅の近くにしたい方がよい。</p>	<p>また、平成34年度の統合までに新校舎等を整備するためには、生徒が学校にいながら工事を進める必要がありますが、運動場が使えなくなり、体育や部活動等に支障が生じるほか、工事中の騒音や安全面等で課題があります。</p>
<p>新校舎は利便性を一番に考えると足利女子高校が良い。</p>	<p>したがって、統合当初は足利高校の校舎を使用し、その間に足利女子高校の校地において新校舎等の整備を進め、平成36年度以降、新校舎等の落成後に、移転する計画としましたので御理解願います。</p>
<p>新校舎完成までの間、足利高校の校舎を使用するとのことだが、その間、生徒も集まらないのではないのか。</p>	
<p>新校の生徒に負担が掛からないよう、新校舎は平成34年度の統合までに整備すべきである。</p>	

<p>足利女子高校の狭い敷地で男女が共に勉学や運動を行うのは無理である。</p>	<p>足利女子高校の校地において、より広い運動場を確保できるよう、新校舎の配置等を検討して参ります。</p>
<p>統合した場合、両校の敷地を上手く活用してほしい。</p>	<p>また、足利高校の運動場や体育館も使用することから、移動の負担はありますが、男女の部活動が余裕のあるスペースで実施できると考えています。</p>
<p>統合後、足利高校の校庭を部活動等で利用する計画だが、時間効率の面で課題がある。</p>	<p>現在、足利市内には全日制高校が5校ありますが、学科や卒業生の進路状況などに、それぞれ特長があります。</p>
<p>少子化で高校の定員割れが問題となり学校の統合が必要なのであれば、歴史の浅い高校から整理すれば良い。</p>	<p>足利高校や足利女子高校は、大学等への進学者が大半を占めていますが、足利工業高校や足利清風高校の商業科は就職者の割合が高い状況です。また、足利清風高校の普通科や足利南高校では、大学等への進学者だけでなく、専門学校等への進学者や就職者など多様な進路になっています。こうした進路状況等を踏まえ、足利南高校は多様な科目から選択して学べる総合学科、足利清風高校は普通科でも商業科目を学べる総合選択制高校という特色ある学校・学科としています。</p> <p>安足地区における学校の統合に当たっては、こうした各校の特長を踏まえ、生徒の多様化への対応の観点も考慮して、学科や卒業生の進路状況において同様の特長を持つ足利高校と足利女子高校を統合することとしましたので御理解願います。</p>
<p>定員割れをしている足利高校が足利清風高校や足利工業高校と統合すれば良い。</p>	<p>これまでも地区別説明会や保護者説明会のほか、関係市町・団体等への個別の説明などを通じて、理解促進と意見聴取に努めてきたところです。</p> <p>今後とも、あらゆる機会を通して、県民の皆さまの理解と協力が得られるよう取り組んで参ります。</p>
<p>統合については、十分な議論が必要である。県全体や地元、将来の子どもたちのことを考え、話し合いを重ねてほしい。</p>	

(3) 男女別学校の共学化	
<p>① 共学化全般 [5件]</p>	<p>男女別学校の共学化については、共学の考え方に賛成する県民世論だけでなく、共学校と別学校の共存を望む県民世論にも配慮する必要があると考えています。</p> <p>また、それぞれの別学校が置かれている状況は様々であり、全ての別学校を一律に共学化することには課題があると考えています。このため、第二期計画においては、各高校や地域の実情等に応じて共学化を行うこととしました。</p> <p>共学校では、学校や学科の特色などにより在籍者の男女比に片寄りが生じる場合もありますが、公平な入試の結果であり、特に課題はないものと考えています。</p>
<p>② 宇都宮中央女子高校の共学化 [31件]</p>	<p>宇都宮地区の男女別募集定員の片寄りが是正されることになり非常に良かった。今まで放置されてきたことの方が問題である。</p> <p>共学化に賛成である。宇都宮市に、男子校、女子校、中高一貫教育校と並ぶ、共学のトップ進学校が必要である。</p> <p>母校が無くなるようで寂しいが、共学化も時代の流れと考える。本県一の共学校となるよう、県を挙げて学校を応援してほしい。</p> <p>伝統は引き継ぐだけでなく、新たにつくり続けるものである。宇都宮中央女子高校もこれまでの良き伝統を踏襲しながら共学化という現代のニーズに適合すれば更なる発展が期待できる。</p> <p>宇都宮地区の男女別募集定員の片寄りの是正については必要ない。現在では、学区も廃止されており、選択の自由は十分に確保されている。また、私立高校もたくさんある。</p> <p>伝統校の再編には反対である。再編してしまえば、新たに出来る学校は伝統校では無くなってしまう。</p>

<p>男女別学校の方が勉強に集中できる環境であるのは明らかである。また、女子校の共学化により、女性リーダー育成など女子の人間形成の場が無くなるのではないか。</p>	
<p>男女別募集定員の片寄りを是正するために、宇都宮東高校を男子校に戻したり、新たに男子校をつくったりしてはどうか。</p>	<p>宇都宮東高校は中高一貫教育を行う特色ある学校であることから、男女に入学の機会がある共学が望ましいと考えています。</p>
<p>共学校を男女別募集とし、男子の募集定員を増やすことによって、男女別募集定員の片寄りを是正できないか。</p>	<p>また、生徒数の減少が見込まれている中、新たに男子校を設置することは困難と考えています。</p> <p>共学校を男女別募集とし、男子の定員を増やすことについては、女子の不公平感が高まることが懸念されるほか、入試において男女で合格ラインが異なる不公平も生じるなど課題が多く困難と考えています。</p>
<p>共学化は良いが、男女共に活発に部活動等を行える運動場や体育館は確保できるのか。</p>	<p>宇都宮中央女子高校より運動場が狭い共学校が13校ありますが、各校とも男女の屋外運動部が、練習方法等を工夫しながら活動しています。また、多くの共学校では宇都宮中央女子高校と同じ体育館2棟で男女の屋内運動部が活動しています。</p> <p>これらのことから、宇都宮中央女子高校においても、男女の部活動への対応は可能と考えています。</p>
<p>宇都宮地区には宇都宮女子高校もあるが、なぜ、宇都宮中央女子高校が共学化に選ばれたのか選定基準が分からない。</p>	<p>共学化に必要な運動場の面積や県民の皆様などから頂いた御意見等を参考として、宇都宮中央女子高校を選定しました。</p>
<p>共学化をすると、校舎や校庭の改修が必要となり、財政的な負担も大きい。</p>	<p>男子トイレや武道場など共学化に伴い必要となる整備を行うものであり、御理解願います。</p>
<p>共学化した新校の校名などは、どのように決まるのか。</p>	<p>新校の校名や校章、校歌、制服などについては、同窓会を含む学校関係者や地域の関係者などで組織する新校設立準備委員会において検討して参ります。</p>
<p>宇都宮中央女子高校は校名を何度も変更しているため、「中央」という名前は残してほしい。</p>	
<p>宇都宮中央女子高校の特色である総合家庭科を今後も存続させてほしい。</p>	<p>総合家庭科については、共学化後も引き続き設置します。</p>



<p>(4) 学科の構成と配置の適正化 [15件]</p>	<p>普通系学科と職業系専門学科の比率を7:3で維持することについて十分理解できる。</p>	<p>普通系学科と職業系専門学科の募集定員の割合については、中学生の進路希望が7:3である状況等から判断し、引き続き現在の7:3を概ね維持して参ります。</p>
	<p>職業系専門高校においては、より専門性のある学校となるよう期待する。</p>	<p>職業系専門高校においては、産業界のニーズの変化に対応した実践的な教育を通して、専門的知識や技能の基礎を身に付けさせていくことが重要であり、学校間、学科間の連携や企業等との連携の推進を図るなど、教育内容の更なる充実に努めて参ります。</p>
	<p>少子化の流れの中で、職業系専門学科の統合や改編は仕方がない。</p>	<p>職業系専門学科の改編や閉科については、中学生の進路希望状況や地域のニーズ、通学圏に配慮しながら行って参ります。また、その際、コース制の導入や選択科目を設置することで、引き続き、生徒や地域の多様なニーズに対応して参ります。</p>
	<p>足利清風高校の情報処理科を閉科することは、地域の中学生の選択肢を狭めることになる。</p>	<p>現在、下都賀地区には福祉科が設置されていませんが、小山城南高校の福祉系列を充実させることで、基礎的な知識・技能の修得とともに「介護職員初任者研修修了資格」の取得により介護人材の育成も図って参ります。</p> <p>また、福祉系列の充実と併せ、全ての系列の見直しも図ることで、男女を問わず、子どもたちや地域の多様なニーズに応えられる魅力ある学校づくりを進めて参ります。</p>
	<p>小山城南高校の福祉系列を充実させた場合、総合学科の特色やバランスが崩れる心配がある。また、男子の入学者が減少する可能性がある。</p>	<p>今市高校の総合学科では、人文・社会系列や自然科学系列も設置され、主体的な科目の選択により普通科と同様、又はそれ以上に進路目標の実現に適した科目選択が可能となっています。その他にも情報や商業、家庭や保育、芸術など100科目にも及ぶ多彩な科目が用意され、多様な生徒のニーズに対応しています。</p> <p>このような総合学科の特色について、中学生やその保護者、地域の方々の理解が促進されるよう、更なる情報発信に努めて参ります。</p>
	<p>今市高校の総合学科を普通科へ戻してほしい。地域の保護者には普通科のニーズがある。</p>	<p>今後の教育施策を検討する際の参考とさせていただきます。</p>
	<p>今市高校の総合学科は中学生にとって魅力的であるので、総合学科のまま維持してほしい。</p>	
	<p>宇都宮北高校の普通科の一部を国際科に転換し特色化を図ってはどうか。</p>	
	<p>小山高校の数理科学科は、総合学科へ転換すべきである。</p>	
	<p>真岡北陵高校の農業機械科は、他科へ転換するか、廃止すべきである。</p>	

	<p>小山南高校のスポーツ科は、1学級に減らし、福祉系の学科へ転換すべきである。</p> <p>高根沢高校の商業科は、学級減をして福祉系の学科へ転換すべきである。</p> <p>足利女子高校の家政科を復活させてほしい。</p>	<p>職業系専門学科の設置については、その学習機会が確保されるよう通学圏にも配慮しながら全県的な視点で配置しています。安足地区において家庭科は、佐野松桜高校に設置しています。</p>	
<b>2 特色化の推進</b>			
(1) 単位制高校 [19件]	<p>単位制は少人数指導や選択科目の幅が拡大するなど魅力的な制度であり、積極的に導入してほしい。</p>	<p>単位制の導入に伴い、教員が加配されるため、学年制よりも生徒の興味・関心や進路希望等に応じた多様な科目の開設や、学習習熟度別少人数学習の充実が可能となります。そうした個に応じたきめ細かな教育活動の展開が、生徒一人一人の進路目標の実現につながると考えています。</p>	
	<p>他県の単位制の例を見ても、クラスや学年、必修科目や選択科目があり、学年制と変わらない。単位制を導入するメリットはないのではないか。</p>		
	<p>単位制の導入で進学実績が伸びるのか疑問である。</p>		
	<p>単位制において、生徒が進路目標に応じた科目を選択するのは困難なのではないか。科目が極端に片寄るおそれもある。高校時代には、高校生として必要な知識を幅広く学ぶべきである。</p>		<p>生徒ができるだけ早期に目的意識を明確化し、適切な科目選択ができるよう、ガイダンス機能を充実して参ります。</p>
	<p>単位制ではクラスという概念がなく、授業ごとに教室が変わるなど、長い時間を一緒に過ごす友達が出来にくい環境である。コミュニケーションの面で不安である。</p>		<p>単位制高校においても、ホームルームを設置し、クラス担任による計画的、継続的な指導、援助のもと、集団での活動を通し、望ましい人間関係の形成や社会性の涵養に努めて参ります。</p>
	<p>馬頭高校の単位制は、多様な学びに重点とあるが、進学のニーズもあるのではないかと。</p>		<p>多様な学びに重点を置いた単位制高校では、大学等への進学から就職まで、幅広い進路にも対応できる教育課程を編成して参ります。</p>
(2) コミュニティ・スクール [7件]	<p>コミュニティ・スクールにおいては、魅力ある学科の設立や地域の特性を生かすために地域住民の意見が重要である。</p>	<p>コミュニティ・スクールにおいては、地域住民や保護者などを学校運営協議会の委員とし、その意見を学校運営や教育活動に反映させるとともに、地域の教育力を積極的に活用しながら、地域ならではの創意や工夫を生かした特色ある学校づくりを進めて参ります。</p> <p>委員の方々には、コミュニティ・スクールについての理解を深めていただけるよう研修会や先進校の視察などの機会を設けたいと考えています。</p>	
	<p>コミュニティ・スクールについての理解を深めるため、委員の研修等が必要である。</p>		

	<p>中学生の高校選択の参考となるよう、学校運営に関する方向性を早い段階で示す必要がある。</p>	<p>各校の協議会において学校運営の基本方針が承認された後、速やかに学校の特色等について広報できるよう努めて参ります。</p>
(3) その他 [2件]	<p>「学び直し」を一層充実させるなど、特色ある学校づくりを進めてほしい。</p>	<p>生徒一人一人の学ぶ意欲や目的意識を高め、個性や能力の一層の伸長を図るため、生徒の多様な学習ニーズに対応した学習選択肢を提供するなど、各校の特色化を推進して参ります。</p>
	<p>周辺部の高校に中高一貫教育校を導入し、生徒の都市部への流出を食い止められないか。</p>	<p>新たな中高一貫教育校の設置については、生徒数が減少していく中で、県立中学校の新設が他の公立中学校に与える影響などを考慮し、第二期計画では行わないこととしています。</p>
<b>3 定時制・通信制の規模と配置の適正化</b>		
(1) 定時制高校 [9件]	<p>定時制の再編では、3年で卒業できる制度を導入するなど高校の魅力化が図られている。</p>	<p>定時制は、より柔軟な学習時間帯とするなど、多様な生徒のニーズに応えられる学習環境の整備や社会的自立に向けた支援の充実に努めて参ります。</p>
	<p>午後部の設置や夕夜間定時制など、定時制高校の思い切った転換は、不登校などの問題を抱える子どもを持つ保護者にとって大いに受け入れられる。</p>	
	<p>県北地域の定時制の記載がないが、昼夜間定時制の設置など、再編が必要ではないか。</p>	
	<p>定時制の専用教室の確保は喫緊の課題であり、他の県有施設の利用なども含め、何らかの方法で確保してほしい。</p>	
	<p>職業系専門高校の定時制を普通科に改編するなら、普通科高校に移設してはどうか。</p>	<p>県北地区の2校の夜間定時制においては、専用教室の確保の面などで課題があるため、第二期計画では、現状維持としていますが、引き続き、全日制の施設や教室、他の県有施設などの使用状況を踏まえるとともに、生徒のニーズや通学圏を考慮しながら、定時制の規模や配置の適正化と併せて、午後と夜間に授業を行う二部制定時制など多様な生徒のニーズに応えられる教育環境の整備について検討して参ります。</p>
(2) 通信制高校 [2件]	<p>周辺地域の高校に、空き教室を利用するなどして、通信制を設置できないか。</p>	<p>職業系専門高校の定時制2校を普通科に転換するとともに、工業や商業など職業に関する科目も開設することとしましたが、その際、引き続き、職業系専門高校に併置することで、商業や工業などの施設設備を有効活用し、より一層、効果的な教育活動が実施できると考えています。</p>
		<p>通信制高校については、スクーリング等に通学しやすい環境となるよう学校の配置や協力校の設置などについて研究を進めて参ります。</p>

<p>4 計画の策定について [21件]</p>	<p>計画の策定に至るまでのプロセスが不透明かつ性急過ぎるように感じる。</p> <p>第二期計画は、第一期の計画の評価、検証を十分に行ってから、策定すべきである。</p> <p>計画策定の際は、他県の状況も注視しながら、広く議論を重ねていく姿勢を堅持してほしい。</p> <p>計画を策定するに当たり、他県や全国と比べることなく、栃木県独自の姿を見せてほしい。</p> <p>一番の当事者である地域の高校生、中学生、中学の教員の意見を大事にすべきである。</p> <p>地区別説明会の周知期間が短く、回数も少なかったのではないかと。計画案の説明を聞きたい保護者は多くいると思う。</p> <p>人口減少が大きな問題であることを実感してもらい、高校再編の必要性をもっと訴えて納得を得る努力をしてほしい。</p>	<p>再編計画を策定するに当たっては、有識者による「県立高校再編に関する検討会議」を設置し、平成26年度に第一期再編計画の成果と課題について検証を行っていただくとともに、27年度には、その結果や全国の状況等も参考としながら、本県における今後の望ましい県立高校の在り方について提言を取りまとめていただきました。</p> <p>県教育委員会では、男女共学・別学についての県政世論調査や中学生、高校生及びその保護者へのアンケート調査を実施したほか、28年度には、県民意見の募集と併せ、「高校再編県民フォーラム」を開催し、直接意見交換を行いました。また、全ての県立高校及び市町等を訪問し、意見の聴取に努めて参りました。そして、提言とともに、頂いた御意見も参考としながら検討を重ね、本年7月に、「第二期県立高等学校再編計画（案）」を公表しました。</p> <p>計画（案）公表後も、旧学区ごとに説明会を実施し県民の皆さまと意見交換を行ったほか、パブリック・コメント制度による意見募集、さらには、小中学生の保護者向け説明会や関係団体との意見交換なども行って参りました。</p> <p>計画決定後も、計画普及用のリーフレットを作成し配付するほか、要望に応じ個別に説明会を開催するなどして、計画内容を広く県民の皆さまに御理解いただけるよう努めて参ります。</p>
<p>5 その他 [24件]</p>	<p>本県の教育の質を高めるために全力を尽くしてほしい。</p>	<p>第二期再編計画に基づき、魅力と活力ある県立高校づくりを進めるなど、本県教育行政の基本方向を示す「栃木県教育振興基本計画2020—教育ビジョンとちぎ—」に掲げた基本理念や基本目標の実現を目指し、市町教育委員会をはじめとする教育関係者はもとより、県民の皆さまの御理解と御協力を頂きながら、とちぎの教育の更なる充実に努めて参ります。</p>

<p>進学実績を向上させるために、教員の質を高めるとともに、熱意のある教員を配置してほしい。</p>	<p>「学び続ける教員」を目指し、教職経験年数に応じた研修の更なる充実・改善を図るなど、実践的指導力の向上に努めて参ります。</p> <p>また、教員の養成・採用・研修に一体的に取り組むことにより、本県教員の資質・能力の向上に努めるとともに適材を適所に配置するよう努めて参ります。</p>
<p>県は、教育にもっと予算を掛けるべきである。</p>	<p>時代の要請や生徒の多様な学習ニーズに沿った教育環境の質的向上が図れるよう、教育予算の確保については、今後とも努力して参ります。</p>
<p>今回の再編を機に、施設・設備の整備も行ってほしい。</p>	<p>再編を行う上で必要な予算の確保については、今後とも努力して参ります。</p>
<p>閉校となった高校の施設をうまく利活用してほしい。</p>	<p>閉校となった高校の施設については、跡地の利活用を希望した地元市町に譲渡しているところです。</p> <p>譲渡を受けた地元市町においては、施設を利活用するほか、跡地開発を行うなど、有効に活用していただいています。</p>
<p>統合校の記念展示会や、校歌を披露する行事の開催、記念本の製作などを行ってほしい。</p>	<p>これまでの統合においても、閉校記念誌の発行や、新校に旧校の資料を展示する資料室の設置をしています。</p> <p>今後も、同窓生らが母校の歴史を振り返られるようにするとともに、新校の生徒らとその歴史と伝統の継承者としての意識高揚が図れるよう努めて参ります。</p>
<p>公立高校の定員削減だけでなく、私立高校の定員削減も行う必要があるのではないか。</p>	<p>私立高校の募集定員については、各校が独自に定めており、教育委員会の所管外となります。</p> <p>今後も、公立高校と私立高校で双方の特長を発揮しながら協調と競争のもとで切磋琢磨し、本県の高校教育の一層の充実を図って参ります。</p>